



Shibaura Institute of Technology

校友会本部だより

Vol. **20**
2015. JUNE

芝浦工業大学校友会の概要と活動について

校友会は、昭和2年に発足しました。本部を東京都港区に設置し、海外（韓国・台湾）を含む北海道から沖縄までの地域に居住している卒業生で構成される「地域支部」、官庁や企業などに在職や退職の卒業生で構成される「職域支部」、「学科支部」、研究グループ・スポーツ等共通するグループの卒業生で構成される「同好支部」など現在81の支部を組織し、本部と連携して様々な活動を行っています。なお、校友会の目的は、会則第3条、第4条にかかげられているとおり、会員相互の交流と親睦を深め、会員の社会活動の増進に寄与すると共に母校の教育研究事業を援助し、母校の発展に寄与することとしております。

平成26年度実施の校友会活動計画の一部を列記しますと、

- 1、在校生への就職支援活動
- 2、在校生の研究・実習活動への協力・卒業生による実学サロンの開催
- 3、在校生主催「芝浦祭」・「大宮祭」への支援
- 4、入学生への校歌CDの贈呈
- 5、新卒業生への記念品の贈呈
- 6、母校開催父母懇談会への協力
- 7、母校開催のホームカミングデーへの協賛
- 8、母校開催の新年交歓会への協賛
- 9、母校記念事業への協力
- 10、箱根駅伝予選会出場への支援活動
- 11、校友会全国総会、賀詞交歓会の開催
- 12、校友会各支部への活動支援
- 13、全国卒業生の名簿編纂
- 14、資格取得講座の提供

などとなっております。又、来年度以降も各種の事業活動の協賛・支援等を含めさまざまな活動を行います。これらの活動を通じて芝浦工業大学の在校生と教職員の連携及び協力関係を密にすることにより大学の社会的基盤をさらに強固なものとしたたく活動して参ります。今後とも校友会活動に是非ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

目次

芝浦工業大学校友会の概要と活動について	実学サロン	14
役員挨拶	第9回 実学サロン	16
会長挨拶	第10回 実学サロン	18
	第11回 実学サロン	20
	第12回 実学サロン	22
	第13回 実学サロン	24
委員会報告	支部活動報告	26
総務広報委員会	校友会支部及び支部長一覧	35
財務委員会	常任幹事会、相談役・顧問名簿	36
事業委員会	卒業生評議員のご紹介	38
組織委員会	“支部旗”全国にひるがえる	40
例規委員会	「校友倶楽部」のご案内	41
特別委員会	資格取得講座のご案内	42
在校生就職支援委員会	課外活動紹介	43
	御寄付の御礼	49
役員紹介	「芝浦工大卒業生人材バンク」より登録のお願い・大学オリジナルグッズのご紹介	50
理事長挨拶	広告	51
学長挨拶		
「Shiba-joプラチナネットワーク」について		

会長挨拶



芝浦工業大学 校友会

会長

鈴木 健夫

建築学科 昭和45年卒業

全国の卒業生、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は各支部の活動にご尽力、ご協力を賜りまして誠に有り難うございます。

本年も6月13日に「ホテルイースト21」におきまして盛大に全国総会・懇親会が開催されることになりました。是非全国の卒業生、ご家族の皆様にご多数参加して頂きたいと思っております。母校芝浦工業大学も昨年9月には文部科学省が指定するSGU（スーパーグローバル大学）に全国の37大学の1つに採択されました。私立理工系大学としては唯一の採択校で10年間補助金の交付を受けることとなります。我々卒業生にとりましても大変うれしいニュースでした。それが大きく報道されたことともありますが本年度の入学志願者数も約39,000名（昨年は約37,000名）と過去最高を記録致しております。

校友会も大学のグローバル化に合わせ昨年はシンガポール支部の立ち上げ、台湾支部の再スタートをすることが出来ました。今年は2月にタイのバンコクでタイ支部設立準備会を開催し、25名の卒業生が集まってくれました。今年は中国、マレーシアにも支部を作っていきたいと考えています。

海外支部を作ることにより学生の海外インターンシップの紹介、留学生の斡旋等を含め海外での卒業生の交流を盛り上げようと、現地で活躍されている卒業生を現地情報誌等に広告を出して掘り起こしをしています。皆様の知り合い等で海外にて活躍されている卒業生をご存じでしたら是非ご紹介頂きたいと思っております。

昨年7月、校友会本部は役員改選を致しまして約1/3の役員が入れ替わりしました。本部は役員定年制を設けまして、70歳を超えて新しく役員には就任しないということになりました。但し長く貢献頂いた役員の皆様には顧問、相談役制度を設け全員の皆さんに委員会にも参加をして頂き、後輩へのアドバイスを頂いております。校友会は卒業生全員が会員であり、先輩、後輩、在学生そして教職員の皆様との交流の場があります。今後とも全国の校友の皆様「役に立つ」校友会を目指していきたく思いますので、皆様方のご意見、ご要望等ありましたら本部事務局の方に連絡頂ければと思います。

最後に卒業生、ご家族の皆様のご繁栄とご健勝を心から祈念申し上げます。

ファサードエンジニアリングのリーディングカンパニー

AGB 旭ビルウォール株式会社

URL: <http://www.agb.co.jp>

相談役

校友会会長 **鈴木 健夫** (S45 建築)

〒111-0036 東京都台東区松が谷 1-3-5 JPR 上野イーストビル 8階
TEL.03-5806-3110 FAX.03-5806-9688



芝浦キャンパス

副会長・総務広報委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

林田 和雄

建築学科 昭和 52 年 卒業

校友会歴：平成 11 年 7 月常任幹事就任

平成 14 年 7 月～平成 23 年 6 月副会長就任

平成 26 年 7 月副会長

平成 26 年 7 月の役員選挙におきまして、全国の校友の皆様にご支援を頂き、副会長に就任致しました。心より御礼申し上げます。

平成 11 年に校友会の常任幹事をさせて頂き、15 年にわたり諸先輩のご指導のもと、在学生並びに卒業生の支援に取り組んで参りました。

平成 11 年当時の主な校友会活動は、年 1 回の全国総会と校友会を支える地域支部総会・企業支部総会の開催であったと記憶しています。また在学生への支援はクラブ活動など教育資金への寄付が主でありました。

近年、芝浦工業大学の発展は目を見張るものがあります。私立理工学系大学では唯一、スーパーグローバル大学として選ばれ、10 年間の支援を国から受ける事になりました。教育の国際化が進む中、本大学の未来は前途洋々たるものがあります。

こうした本学への評価は、大学当局のご努力はもとより、在学生の取組みや卒業生が社会で活躍する姿に象徴されていると考えます。今後も校友会あげて、本学の発展に寄与して参りたいと思います。

さて現在の日本は、少子高齢社会を迎えています。2025 年は団塊の世代が 75 才となる年であり、生涯学習の重要性が指摘されています。また進学希望者が大学を評価・選別できる時代と言われています。まさに公私立大学の生残りをかけた戦国時代の到来であります。

本年、校友会は卒業生の力で就職率向上を図る為に新たに委員会を立ち上げました。就職に強い大学を目指し、更なる人材の輩出を図ろうとする試みであります。

社会に実学をもって貢献するとの創立者の精神を具現化する為にも私自身、懸命に取り組む事を決意し、全国校友の皆様へのご挨拶と致します。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

総務広報委員会

この度、新たな校友会役員体制が発足しました。全国の校友のネットワークの強化が急がれています。総務広報委員会では実学サロンの充実と広報活動の充実が望まれるところです。

さて芝浦工業大学は、私立の理工系で唯一スーパーグローバル大学に選定され、国際的な活躍が期待されています。卒業生としての誇りを胸に社会へ貢献することが、校友会発展の更なるステップを刻む事になるでしょう。総務広報委員は団結して前進して参ります。

委員

小 平	和 一 朗	(S45・電子)
中 根	眞 行	(S55・工経)
元 井	彰	(S55・土木)
藤 田	利 行	(S62・電気)
安 藤	吉 伸	(H4・二部電気)
中 川	雅 史	(H12・土木)
柏 倉	隆 行	(H12・機制)
滝 下	勇	(H16・二部電設)
顧問 小 川	誠	(S41・機Ⅱ)

副会長・財務委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

神野 兼次

建築工学科 昭和 49 年 卒業

校友会歴：平成 20 年～常任幹事

平成 23 年～副会長・例規委員長

平成 26 年～副会長（2 期目）・財務委員長

経 歴：平成 24 年～株式会社アペックエンジニアリング 代表取締役社長

此度財務委員長を担当させて頂くことになりました。委員の皆様と協力し合って会を運営してまいりますので宜しくお願い致します。財務委員会は各委員会からの予算要求に対し、審査・調整を行い、予算書を作成します。今期予算書及び前期決算書は、全国総会にて承認を得て決定となります。承認された予算通りに事業が執行されているか確認を履行します。特別な支出に関しては執行役員会、常任幹事会の議決を経て、補正予算を組むことがあります。平成 27 年度は前期に比べ収入減となり、厳しい予算となっております。校友諸氏のご理解とご支援を宜しくお願い致します。

財務委員会

財務委員会は、財務の収支予算管理を行います。主な収入は基本財産運用収入・会費収入・事業収入・雑収入・寄付金収入から成っていますが、毎年収入が減少、支出が増加傾向にあり、確実な財務管理を求められています。

毎年総会に於いて承認戴いた予算を計画通りに執行されているか常に確認を怠らず、又補正予算が発生した場合速やかに執行役員会、常任幹事会の議決を経て、対応して行きます。皆様ご協力の程宜しくお願い致します。

委員

森 川 理 (S47・電子)
 加 藤 善次郎 (S55・機械)
 文 倉 辰 夫 (S55・電気)
 荻 谷 義 治 (H2・金属)
 野 元 明 俊 (H12・二部電気)



株式会社アペックエンジニアリング

戸田建設グループ

代表取締役社長 **神野 兼次**
 (校友会 副会長)

本 社：〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-11-7 東通ビル 2F
 TEL 048-650-7770 FAX 048-650-5533
 E-mail: k.jinno@apec.cc
 東京本部：〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-6-1 八丁堀センタービル 4F
 TEL 03-6222-2830 FAX 03-6222-2840

建築工事業・防水工事業

株式会社

日本高分子企業施工部

代表取締役 **長沢 栄太郎**
 (S46 年 建築卒)

〒252-0325
 神奈川県相模原市南区新磯野 5-18-4
 TEL・FAX 046-256-5467

地球環境を大切にする
 株式会社 日本環境設計

校友会 選挙管理委員

代表取締役社長 **加藤 善次郎**
 (昭和55年機械卒)

〒231-0028
 横浜市中区翁町2-9 ファム横浜本社ビル5階
 TEL (045) 212-2757 (代)
 FAX (045) 212-2758

副会長・事業委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

畠中 總一郎

機械工学科 昭和43年 卒業

校友会歴：平成18年 機械工学科同窓会会長 就任
 平成24年 校友会機械工学科同窓会支部承認 支部長を拝命
 平成26年 同支部長 退任
 平成26年 校友会副会長・事業委員長を拝命
 経歴：昭和43年 高砂ゴム工業株式会社入社
 昭和48年 同退社
 昭和48年 株式会社大成電機製作所入社
 昭和61年 同退社
 昭和61年 株式会社日興電機製作所を設立 代表取締役役に就任
 平成13年 同社閉鎖
 平成13年 有限会社ワンダー電機製作所を設立 代表取締役役に就任
 平成20年 S E テクノ株式会社を設立 代表取締役役に就任

機械工学科を昭和43年に卒業して早、半世紀近くになりましたが、まだ現役で頑張っています。

昨年まで機械工学科同窓会の会長を約8年務めさせていただき、在任中に是非とも校友会に入れるように模索しておりました。2012年1月支部として認められ皆さまのお仲間に入れていただき、今日に至っております。

事業委員会

昨年の総会・懇親会では、名誉ある実行委員長を拝命し、さらに事業委員長もお任せいただく事となり、身に余る光栄と深謝しております。

それで、事業委員会をお引き受けする事にしました。

事業委員会は、名の通り事業を推進していくことで卒業生、大学、学生達に貢献し、校友会を盛りたてる事を使命としております。総会・懇親会の開催はもちろんの事、新年賀詞交歓会、校友倶楽部の管理・運営、収益事業の企画・運営、大学事業への支援、協力、等々有ります。

この度、新事業としてインターネットを活用し、校友の生産者・事業者の窓口になり製品・サービス等、販売の橋渡しのお手伝いなどが出来ればと考えております。

皆さま、ご意見などお聞かせいただければ幸いです。私も、短い任期ではありますが、一所懸命務めさせていただきます。

これからの事業委員会の活動に、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

委員

野田	浩	(S45・通信)
植松	恵一	(S46・通信)
野口	博文	(S47・土木)
高木	光一	(S48・機械)
斎藤	教男	(S49・建築)
森本	静	(S50・工経)
木名瀬	英彰	(S54・土木)
釜井	重一	(S55・建築)
青木	豊治	(S57・機械)
長谷川	健嗣	(S57・機械)
市川	拓	(H8・機Ⅱ)
西河	洋一	(H21・工学マネ)
相談役 顧問	金井 吉野	昭三 巖
		(S41・機Ⅱ) (S43・機械)

副会長・組織委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

前野 和博

工業経営学科 昭和46年卒業

校友会歴：平成23年 常任幹事
 例規委員会 委員
 平成25年 硬式野球部 OB会支部長
 平成26年 副会長
 組織委員会 委員長
 経歴：昭和46年 東京芝浦電気(株) 入社
 平成13年 東芝 北海道支社長
 平成15年 東芝 中国支社長
 平成17年 三興電機(株) 代表取締役社長

平成22年11月に開催されました第4回東京総支部総会に招かれて、講演会で野球に関する話をさせていただいたのを機に、翌平成23年から常任幹事、例規委員として校友会活動に参画しております。

昨年実施された役員選挙で副会長に選出され、組織委員長を拝命致しました。鈴見会長のリーダーシップの下、微力ではありますが全力投球する所存ですので宜しくお願い申し上げます。扱て、皆様ご存知の通り母校は昨年文部科学省から「スーパーグローバル大学創生支援事業」に採択されました。今後10年間に亘って文科省の支援を受けながら大学全体の国際化が益々進むものと思われまます。校友会としても海外支部の立上げや女性会員の参加勧誘は喫緊の課題でありますし、従来からの施策である全国組織の活性化、支部の拡大と支部活動の活性化、更には後援会との連携強化等も推進してまいります。皆様のご協力によりまして、昨年は海外からシンガポール支部が、同好会ではハンドボール部、ソフトテニス部、スキー部、ヨット部のOB会支部が加入し86支部となりました。今後は女性支部や学科支部、同好会支部の加入を積極的に展開して、校友会組織の拡充、活性化を推進してまいりたいと存じます。

全国の校友会員の皆様におかれましては、校友会並びに母校芝浦工大の発展とブランド力向上の為、一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。皆様の益々のご活躍を祈念申し上げます。

組織委員会

前組織委員会の方針を踏襲し発展させる。前任の郡司委員長には参与として、4名の顧問にメンバーとして参加して頂くことになった。

■校友会組織の拡充・活性化

※新規支部の開拓（海外、女性、学科、同好会、研究室等）

現在86支部⇒100支部へ

■後援会との交流を地域支部と共に推進し連携強化する

■卒業生名簿の編纂

各年毎の追補版発行

10年毎に名簿編纂、発行

委員

大丸	征史	(S39・電子)
清水	修司	(S44・建築)
小野瀬	等	(S45・通信)
内田	武男	(S46・土木)
長井	義明	(S47・建築)
犬塚	祥二	(S54・建工)
中村	行男	(S56・建築)
渡辺	通宏	(S60・二部機械)
吉本	竜也	(H3・建築)
顧問	滝沢厚征	(S39・建築)
顧問	田口継道	(S39・建築)
顧問	雲然國幸	(S41・機Ⅱ)
顧問	岡本泰明	(S41・機械)
相談役	郡司卓臣	(S43・機械)

副会長・例規委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

谷川 潮

機械工学第二学科 昭和45年卒業

校友会歴：平成20年 常任幹事就任
 平成23年 監査役就任
 平成25年 東京総支部副支部長、多摩支部長就任
 平成26年 副会長、例規委員長就任
 大学経歴：平成26年 評議委員（校友会選出）就任
 経歴：平成17年 東京いすゞ自動車(株)専務取締役
 平成21年 東京いすゞ自動車(株)理事就任（現）
 平成21年 東京いすゞ自動車(株)社長補佐就任（現）

この度、校友会副会長を務めさせて頂くことになりました谷川潮です。監査役より副会長に就任することになりました。87年という伝統ある校友会で錚々たる諸先輩方が多数いらっしゃる中、身に余る大役ではありますが、母校と校友会の発展、そして同窓生の皆様のお役に立つよう微力ながら全力を尽くす所存です。どうかよろしくお願い申し上げます。

東京高等工商学校の大先輩方から芝浦キャンパスで学ばれた先輩方、卒業したばかりの新人会員の若い同窓生、そして海外で活躍されている方々にいたるまで、母校に関心を持っていただけるようにコミュニケーションを図り、そして大学、後援会とともに積極的に現役学生の支援もしっかりやっていきたいと存じます。校友会の皆様におかれましては引き続き就職支援等にもお力をいただき、更なる「芝浦ブランド力向上・校友会の輪拡大」のためにもご支援とご鞭撻を賜りたく何卒よろしくお願い申し上げます。

例規委員会

例規委員会は平成15年3月11日に発足し、平成16年6月19日に例規集第1刊が発行され平成24年10月10日「芝浦工業大学校友会例規集」第2刊が発行されました。

例規集は校友会の発展とリンクし、全芝浦のブランド力の祖の一つに値するものと思います。今後はその時々々の事象を受け止め校友会会員の総意の基に民主的に運営、活動していけるように検証しながら役割を果たしていきます。

委員

赤井 和 憲 (S47・土木)
 野上 宏 明 (S51・金属)
 安齋 正 博 (S55・機Ⅱ)
 鯨井 武 (S56・電気専攻)
 安田 俊 司 (H4・機Ⅱ)
 齋藤 敦 史 (H4・通信)
 山口 正 樹 (H5・電子)
 顧問 今 村 均 (S40・機械)

LIXIL

Link to Good Living

私たちは、優れた製品とサービスを通じて、豊かで快適な住生活の未来を創造する住まいと暮らしの「総合住生活企業」です。

株式会社 LIXIL <http://www.lixil.co.jp/>



PÂTISSERIE CREATIONS
GATEAU FESTA HARADA

株式会社 原田

代表取締役 原田 義人

〒370-1301 群馬県高崎市新町1207
TEL 0274-40-3331 FAX 0274-40-3341

建築士・宅建・各種施工管理

日建学院

あなたの夢、応援します。

日建学院コールセンター

☎0120-243-229

株式会社建築資料研究社 東京都豊島区池袋2-50-1
受付/AM10:00~5:00(土・祝日は除きます)

副会長・特別委員長ご挨拶



芝浦工業大学 校友会

副会長

枝広 英俊

建築学科 昭和 46 年 卒業

校友会歴：平成 18 年～平成 23 年 常任幹事
平成 24 年～平成 26 年 副会長・特別委員会委員長
平成 26 年～現在 同上

経歴：昭和 46 年～昭和 47 年 多田建設(株)、ワコサ建
昭和 47 年～平成 26 年 芝浦工業大学 助手、講師、助教授、
教授

(この間、学生センター長、学長室員・補佐、建築学科主任、
建設工学専攻主任、クラブハウス建設計画委員等を歴任)
平成 26 年～現在 芝浦工業大学名誉教授(建築学科)、建築会会長

校友会副会長として、また特別委員長として 2 期目になりますが、主な活動内容は特別委員会が設置された当初(平成 17 年)からの方針である「テレビ放映される運動部の推進を図りたい」との考えに基づき、陸上競技部“駅伝ブロック”が箱根駅伝予選会・本選に出場することを目標に支援活動を行ってきました。味澤善朗監督の招聘、奨学金給付制度の制定・運用、校友会員諸氏からの活動支援募金などを経て、「5,000 m を 16 分 30 秒以内の選手が 10 名以上」の条件をクリアし、2012(平成 24)年に本学は初めて予選会への出場を果たし、予選会での校友諸氏の応援とテレビ放映が実現しました。しかし、2012 年には 40 位、2013 年には 31 位、2014 年には 33 位と、本選出場には道程はまだまだ遠いと思われまじ、課題も山積みですが、学問を追究しながらの日頃の練習、夏季および春季お泊りでの強化、埼玉駅伝や奥多摩溪谷駅伝への出場、日本学生(立川)ハーフマラソン大会や琵琶湖マラソンへの参加などの活動を通じて、一応の成果を見ることができました。今年度もより一層の努力・活躍を期待し支援していきたく考えています。

その他、特別委員会では従来から支援してきた TBT(鳥人間)や SRDC(ロボット)などをはじめとして、熱心で成果の期待できるより多くの課外活動の支援を行う計画をしています。さらに、校友会活動の若返り対策や、漸増した女性の参加を促す計画も検討しています。宜しくご理解の上、更なるご協力をお願いする次第です。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

特別委員会

平成 17 年に箱根駅伝出場を目指して特別委員会が発足してから、本年で 10 年目を迎えました。

本年度は特別委員会のメンバーも数名入れ替わりしましたが、新たな活動方針・計画に基づいて、事業委員会や組織委員会および常任幹事会等との連携・協力もお願いしながら、芝浦工業大学の発展を願い、また学生への支援継続を図りながら進めて参りたいと考えています。校友諸氏の益々のご理解とご協力・ご支援を宜しくお願い致します。

委員

辻村	建	(S46・建築)
角野	和明	(S46・建築)
長澤	栄太郎	(S46・建築)
井出	恵慰	(S47・工経)
浅見	勝	(S51・建築)
佐々木	克則	(S60・電気)
福田	栄寿	(H1・機Ⅱ)
新井	剛	(H7・金属)
山西	陽子	(H9・機械)

在校生就職支援委員長ご挨拶

委員長 鈴見 健夫 昭和 45 年 建築学科卒業（芝浦工業大学校友会 会長）

昨年 7 月の新しい執行部体制のスタートにあたり「在校生就職支援委員会」を新しく組織致しました。以前から校友会では在校生の就職支援はしてきましたが、ここ数年来後援会（父母の会）との交流会を重ねている中で後援会の皆さんから進路相談を受けるケースが多くなり、実際に相当数の在校生を卒業生の関連企業にお願いをしてきました。芝浦工大は就職に強い大学とマスコミ等でも報じられております。

実際不況時でも 90%前後の就職率を維持してきました。

しかし、私は大学には就職希望者に対しては、100%の就職率を目指しましょうと言ってきました。例年、年末から年を越しても約 200 名近い就職未内定者がいます。その在校生に対しての就職支援活動をするのが目的です。中小企業にも優良企業は沢山あります。卒業生の関係する企業も多々あります。10 月 1 日の大企業の内定式に行けなかった在校生を支援するために、校友会では昨年 10 月から卒業生の関係する求人企業を募集しています。2 月の時点で 85 社の企業からの求人票が集まりました。

この 3 月の卒業生は景気の上向きもあり、約 95%近い就職率見込みです。100%になれば大学志願者数はずっと増えることは間違いありません。今後とも卒業生の関連企業を増やしていきたいと思っております。取り敢えず 200 社を目標にしています。是非卒業生の皆様方からの求人票をお待ちしています。「在校生就職支援委員会」は毎年 10 月から翌年 3 月までが主たる活動期間です。

是非皆様方のご支援、ご協力をお願い致します。

在校生就職支援委員会

畠 中 總一郎 (S43・機械)	谷 川 潮 (S45・機Ⅱ)
渡 辺 碩 (S45・建築)	泉 澤 定 雄 (S46・建築)
枝 広 英 俊 (S46・建築)	前 野 和 博 (S46・工経)
角 野 和 明 (S46・建築)	神 野 兼 次 (S49・建工)
小 川 達 生 (S51・通信)	林 田 和 雄 (S52・建築)
飯 島 敏 春 (S54・機械)	伊代田 岳 史 (H9・土木)

求人申込のお願い

かねてより各支部から芝浦工業大学の学生が自社にほしいとのご要望を頂いております。それを受け、校友会執行部に「在校生就職支援委員会」を立ちあげました。芝浦は就職率が高い大学ですが、就職率 100%にはまだ至っていません。全国卒業生の関連企業の皆様に、求人のご協力をお願い致します。12 月以降の採用もご検討いただけるような、中小問わず企業の校友皆様へご協力をお願い申し上げます。

具体的な流れとしては、以下になります。

- 1、校友会ホームページから「求人申込書」をダウンロード、記入
- 2、校友会事務局へ提出
- 3、校友会事務局が大学の就職担当者へ提出
- 4、学生の希望があった場合、校友会事務局から企業担当者へ連絡
- 5、学生と企業で出願、選考
- 6、結果を校友会事務局へ連絡

即希望に添えるとは限りませんが、広く学生に PR をしたいと考えております。何卒ご高配を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

尚、平成 27 年 3 月卒業生対象で校友会を通して求人企業数は「約 85 社」でした。そのうち、内定者は約 50 名でした。全国の関係者の皆様、本当にありがとうございました。

求人申込書：<http://www.shibaura-koyu.jp/renraku/info.php?id=78>

送付先：〒108-8548 東京都港区芝浦 3-9-14 芝浦工業大学内

E-mail: sitfriends@shibaura-koyu.jp

T E L : (03) 5445-9634 F A X : (03) 5445-9635

役員紹介



芝浦工業大学校友会
監査役
泉澤 定雄
建築学科
昭和46年 卒業

校友会歴

平成15年 埼玉支部長、現在に至る
平成17年 常任幹事、現在まで4期就任
平成20年 評議員（関東ブロック選出）に就任
平成23年 副会長就任
平成26年 監査役就任

経歴

昭和46年 (株)相和技術研究所入社
平成13年 (株)相和技術研究所退社(常務取締役)
平成13年 藍建築工房設立

人が輝くのは、目標に向かって走り回っているときと、他人のために尽力しているときだと思う。前者は主に仕事においてみられ、後者はボランティアや変革を行っているときに発揮される。

私たちの校友会活動は、自分が偉く見られたいとか、みんなの中で目立ちたいとか、で行うものではない。先輩の方々が楽しく校友会に集まれるようにし、同期とは旧交を温め、後輩には自由に羽ばたける機会を提供するためにある。

監査役はお金が適正に活用されているか、をチェックするためにある。しかしそれ以上に、大きな流れが淀んでいないかを、冷静に判断し、活力ある組織運営がなされているかを確認することが、最も大切な仕事ではないかと思う。



芝浦工業大学校友会
監査役
渡辺 碩
建築学科
昭和45年 卒業

校友会歴

平成25年～26年 校友会常任幹事会議長

経歴

昭和46年 TAW建築設計事務所設立
(昭和56年、株式会社に変更)
昭和60年 (株)ティ・オー・ピー設立

監査役に任命されました渡辺でございます。

現在は、設計事務所と施工会社を経営致しております。

監査といっても、なんら知識を持っている訳ではありませんが、勉強しながら職務をまっとうするつもりです。私のモットーとして、校友会の活動はボランティアでありながら、遊びが大切と思っております。酒を飲みながら語り、先輩後輩の垣根を越えて、校友会、大学の発展と己の成長をめざす事にあると思います。

<総会出席の感想>

我大学は地方で活躍してる方が多く、皆、親睦と交流をはかり楽しい人生を過ごしている様に思います。又、若手も校友会に参加し、盛り上がっている様に感じました。

<父母懇談会出席の感想>

父母の過保護を感じます。昔の学生は独立心旺盛で、就職の事はほとんどの学生が自分で決めたいと思います。

今の学生は親の意見に弱いというか、親が熱心すぎるというのか分かりませんが。

私としては、微力ですが、校友会及び大学の発展に寄与しながら、生涯現役を貫き、残り少ない人生を謳歌するつもりです。

今後ともよろしくお願い致します。

<p>代表取締役 泉澤 定雄 (昭和46年 建築学科卒)</p> <p>有限会社 藍 建築工房</p> <p>〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町3-21-7 熊谷ビル 3F</p> <p>TEL 03-5825-6118 FAX 03-5825-6119</p>	<p>株式会社 TAW建築設計事務所</p> <p>TAW 代表取締役 渡辺 碩 校友会 監査役 昭和45年建築学科卒</p> <p>〒111-0042 東京都台東区寿2-8-11 大黒ビル5F TEL:03-3841-7368 FAX:03-3841-7107 E-mail: taw@mvd.biglobe.ne.jp</p>
---	---

役員紹介



芝浦工業大学校友会
監査役
飯島 敏春
機械工学科
昭和 54 年 卒業

校友会歴

平成 23 年 剣道部錬心会支部幹事長
平成 23 年 本部選出幹事
平成 26 年 常任幹事
平成 26 年 監査役

経歴

昭和 54 年 日本通運(株)入社
平成 19 年 横浜警送支店長
平成 21 年 関東警送支店 部長
平成 23 年 本社警備輸送事業部
(株) REAL ONE TECHNOLOGY 出向
平成 24 年 執行役員 コールセンター長

昨年の役員改選で選出され、初めて監査役の大役を仰せつかりました飯島でございます。若輩者ではございますが、微力ながら尽力する所存でございます。

さて、私の略歴でございますが、東京葛飾区新小岩で生まれ、小松小・小松中・小松川高校卒と小松菜発祥の地にちなんだ下町育ちでございます。現在、日本通運剣道部長代理として、実業団剣道にも励んでおります。入社後、海外プラント工事等の重機建設事業部に 20 年間従事し、平成 11 年から銀行現金輸送の警備輸送事業部で 15 年間従事した後、現在、入金機のメーカーであり、その運用保守を行っている系列会社に勤務しております。昨年、大学は S G U に採択され、今後、益々グローバル化が進み、海外の現地留学生や海外駐在の校友 O B O G が増えて参ります。国内は元より、海外支部の活性化に尽力できればと考えております。

最後に大学創立 100 周年に向けて、鈴見会長の下で、校友会活動の未熟な私ですが、各支部の先輩方、在学生、後援会の皆様のご意見や情報を賜りながら適正な監査業務を遂行してゆく所存でございます。今後共、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



芝浦工業大学校友会
常任幹事会議長
辻村 建
建築学科
昭和 46 年 卒業

校友会歴

平成 17 年～平成 20 年 幹事就任
平成 20 年～平成 23 年 常任幹事就任 選挙管理委員 特別委員
平成 23 年～平成 26 年 常任幹事再任 選挙管理委員長 特別委員
平成 26 年～ 常任幹事会議長 特別委員会副委員長

経歴

昭和 46 年 大末建設(株) 入社
平成 15 年 大末建設(株) 取締役 技術本部長
平成 18 年 同上 顧問
平成 19 年 アイオン(株) 技術部長
平成 22 年 (株) エスアイテック 施設管理部長
平成 24 年 芝浦工業大学 施設管財部 担当部長

校友の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

常任幹事就任以来、三期目となりますが、諸先輩との校友会活動を通して、いろいろな事を知るとともに、会の活性化に努めて参りましたが、まだまだ未熟と自己反省しています。前期は選挙管理委員長を務めさせていただき、今期の新幹事、常任幹事の選出に携わりました。校友会活動を通じて益々母校愛が強くなることを感じ、芝浦の素晴らしさ、よき校友に巡り合えたことに感謝であります。

そして、この度新たに常任幹事会議長を仰せつかりました。多くのことが常任幹事会の議事に基づき審議、決定、運営されているところであり、微力ですが精一杯尽力する所存です。議事運営では、各常任幹事の皆様一人ひとりの忌憚のないご意見とご協力をいただくことが大切であります。不慣れなところも多く、限られた時間の中、十分な審議が有意義に尽くされますよう、常に念頭におき努めます。毎月 1 回開催される執行役員会(会長・副会長)へも監査役・事務局長とともに陪席として出席し、7 つからなる委員会の各委員長の取組方針とその進捗を知ることができ、常任幹事会の議事運営とのベクトルを合わせ、積極運営に努めて参ります。

また、特別委員会にも所属し、当面の目標値である箱根駅伝予選会での 26 位以内を目指す陸上競技部駅伝チームへの支援を、校友の皆様の絶大なる後押しをいただき更に推進し、校友会と学生たちとの接点を大切に、微力ではありますが、「校友の輪と絆を大きく、強く」していきたいと考えます。皆様のご支援を是非とも宜しくお願い申し上げます。

理事長挨拶



学校法人芝浦工業大学
理事長
五十嵐 久也

校友会全国総会の開催おめでとうございます。

皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、3月17日に学部、修士、博士、専門職大学院の学位記授与式が例年のごとく東京国際フォーラムで挙行されました。新たに卒業して校友会員になった1,800名の諸君の卒業後の進路はほぼ100%近く決まりました。校友会を支える若い力です。どうか同じ学舎で学んだ後輩をよろしく願いいたします。

また、4月2日には2,200名の学部、大学院の新入生を迎えることができました。今年の入学志願者は過去最大で1,800名の入学予定者に対し39,000名を超えました。全国の大学の中でもトップクラスの志願者数であります。本学のブランド力はこの数年高まっていると言えます。特に国際化への努力、提案力、それらに対する広報力が原因とも言えます。教育業界において注目されている所以であります。私は先般の全学期首会議で所信を次のように述べました。

- 1) 今年は無年であるが12年後の無年の創立100周年に向けてのこの一年でなければならない。各自持ち場において最大の努力をすることである。
- 2) 本学の成長路線は就職力および入学志願者数、そして財務諸表に表れる。経営資源をどこに投入するかも成長路線を見る上で重要である。豊洲の敷地は一万坪をこえる余剰容積率がある。ここに第二豊洲ともいうべき施設建設も視野に入れなければならない。
- 3) 教育の世界で何が起きているか、その中で本学は何をすべきか教員、職員は正確に把握しなければならない。
- 4) 成長学部、学科はなにか、衰退するものはなにか、切り捨てるものはなにか、新しい段階に入る必要がある。
- 5) 核になるものを全面に打ち出す、万遍なくやれば良いとはいえない。特長を打ち出す。学部や学科の編成を改めることが必要。
- 6) 社会の変動を読み企業の求めているものを察知する。教育研究が求めるものになっているか。
- 7) 教育研究機関として、たとえ不採算であってもやらなければならないものはやる覚悟が必要。MOTについても再度検討して方向性を決める。
- 8) 顕在化された情報、能力のみならず隠れた情報、能力を見だし意志決定はあらゆる情報のもとで行う。特に人事については的確なものでなければならない。
- 9) 本学において大局観を持ちスケールの大きな人材を産みだすためにもリベラルアーツに力を入れる。
- 10) 立場に安住することが最大の敵と考えてほしい。
- 11) 本学が発展出来るか否かは成長する社会に適合できる能力があるか、社会の流れを読み取れるかどうかにかかっている。

これらについて本年よく考えて頂きたいと申し上げました。次に今、教員職員が一体になって建築系学科の再編を検討中であり、2017年4月に新しく4番目の学部として建築学部が誕生する予定であります。また板橋の附属中高の豊洲への移転が同じく2017年3月に終わり新校舎で4月から中学、高校、大学の一貫理工系教育を行うべく開校する予定です。創立100周年には我が国の理工系私学のトップランナーになることを目指しています。ますますのご支援ご理解をお願い申し上げます。

学 長 挨拶



芝浦工業大学
学 長
村 上 雅 人

100周年の芝浦工業大学 Toward centennial SIT

芝浦工業大学は2017年に90周年を、そして、2027年には100周年を迎えます。幸い、本学は、元気と活気のある大学として、社会から高い評価を受けています。しかし、現状に甘んじていたのでは、後れをとってしまいます。今後も輝き続ける芝浦工業大学を維持発展させるためには、戦略をもって、不断の大学改革を進める必要があります。

まず、スーパーグローバル大学に採択された本学は、常に世界を意識する必要があります。そこで、100周年となる2027年には、アジア工科大ランキングのトップ10を目指します。これが、いわばKey goal indicator (KGI) となります。

そして、それを実現するために、5つの目標を掲げました。

- 1 理工学教育日本一
- 2 知と地の創造拠点
- 3 グローバル理工学教育モデル校
- 4 ダイバーシティ推進先進校
- 5 教職協働トップランナー

となることです。

教育では、「学生が大学教育で何を学んだか」すなわち学修成果 (learning outcomes) を大切にします。その結果として、高い就職率と大学院進学率が達成できるはずです。

研究力強化も重要です。研究を通して、学生を鍛え、教員自らも成長することが大切です。世界をリードする研究と、地域との連携を重要視した産学官連携研究を両輪として、知と地の創造拠点を目指します。

また、大学は世界に開かれたものでなくてはなりません。教育研究はダイバーシティ (diversity: 多様性) の中でこそ輝きを増すとされています。いろいろな国の学生と、多国籍の教員が集い、男女共同参画を含めた diversity を尊重し、推進する教育研究環境をつくります。

さらに、すべての日本人学生が在学中に一度は、海外を経験する大学とします。経験は最良の教師です。"Experience is the best teacher." 学生は、海外での交流から多くのことを学び、刺激を受け、学修意欲が喚起されます。

これら目標を達成するためには、なによりも、教員と職員と学生が、心を一にして、協調し、常に前進する文化を醸成することが必要です。

そして、世界に通用する大学では、どこも、校友会 (alumni) との連携を大切にしています。ぜひ、本学が目指す目標を校友の皆さまにも共有いただき、Centennial SIT の実現に向けて、温かい支援をお願いしたいと存じます。

「Shiba-jo プラチナネットワーク」について

Shiba-jo プラチナネットワーク代表
芝浦工業大学工学部機械工学科准教授
校友（工学部機械工学科 1997 年卒業）

山西 陽子



2014 年 6 月 2 日、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」（2013～15 年度）の活動の一環として、かねて準備してきた芝浦工業大学の女性のネットワーク「Shiba-jo プラチナネットワーク」が設立されました。校友会の皆様には、設立に向け、そして設立後も暖かい応援と配慮を頂き、心より感謝いたしております。

設立の趣旨

Shiba-jo プラチナネットワークは、芝浦工業大学の女性研究者・職員・卒業生・在学生在が集い・つながることで、学内では少数者である女性を可視化し、声を届け、互いの躍進を支援しあうことを目的に発足しました。

活動体制と会員の現況

会員は、教職員、卒業生、在在学生計 83 人となりました（2015 年 3 月現在）。その半数が卒業生です。卒業生のほとんどが「後輩の女子在学生の力になりたい」という動機で入会されていることを心強く、ありがたく思っております。活動体制は、実働グループである「コアチーム」が、代表、顧問、大学事務局支援のもと、アドバイザーの助言を受けつつ活動の立案・実施、運営実務にあたる体制を採っています。

主な活動

設立目的に即して、ネットワークは次のような活動を行っていきます。

（1）工学系女性人材のエンパワメントに向けた活動

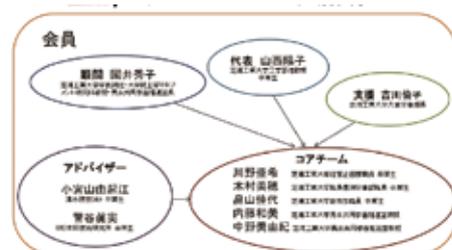
たとえば、相互支援・切磋琢磨のための情報交換、交流を通じた女子在在学生への応援、女子受験生の増加に向けた大学の活動への協力、女性技術者の増員・育成加速をめざす企業との協働活動などを考えています。

（2）芝浦工業大学の女性を可視化する活動

たとえば、女子在在学生や女子中高生へのロールモデル提示、活躍している女性卒業生や初期の女性卒業生の記録作成、大学行事へのブース出展などがあります。



芝浦キャンパスでの設立ミーティング



活動体制



Shiba-jo プラチナネットワークリーフレット



第 20 回ホームカミング・デーでの展示パネル

今年度は、ネットワークを紹介し、広げるためのリーフレットを作成し、また、11 月 22 日の第 20 回ホームカミング・デーに、「Shiba-jo プラチナネットワークコーナー」を開設しました。コーナーでは、リーフレットを配布し、パネル展示を行い、女性卒業生を中心に、ネットワークを紹介して参加をお誘いしました。

発展を期して

発足してまだ 1 年足らずですが、Shiba-jo プラチナネットワークには、ここからさまざまなものが生み出されていく可能性を感じております。

校友会の皆様には、若葉マークのネットワークの成長を見守ってくださいますようお願い申し上げます。

実学サロン

～変革の時代の経営を考える～

会社を出て実学を学び、ネットワークをつくる

実学サロンの講師は校友会の会員であることを原則としています。校友の活躍を再認識し、そのビジネス経験や研究・開発の苦労話などを聞くことは、大変有意義なことです。実践的なエンジニアリングやマネジメントは、その道で体得された方に聞くのが一番です。「実学サロン」とした一つ目の目的は、豊富な経験に基づいた実践的な知識を聞くことにありました。次の目的はネットワーキング（人脈づくり）にあります。創造性を高めるには、異業種交流が重要ですが、どうして日本の社会では、企業内のお付き合いが重視され、異業種との交流がおろそかになってしまう傾向にあります。交友の先輩、後輩が業種を越えて情報交換する場として、実学サロンが皆様のビジネスのお役に立っています。

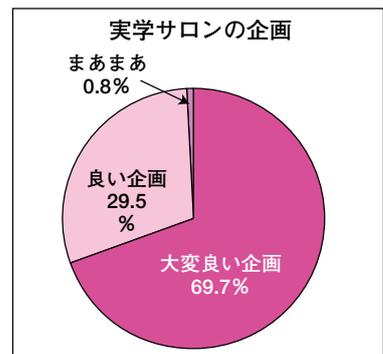


図1 アンケート集計結果（9回～13回）



長江洋一社長は『開発作業のマネジメント、失敗した軍用機から学ぶ（第10回）』と題して経営を語る

校友の活躍を再認識し、ビジネス経験を水平展開する



林田和雄副会長

『実学サロン』と題し、「校友による実学教育講座」を2012年の7月に第1回目を開催し3年になりました。講師は毎回校友です。講師を校友としているのは社会に出て活躍している校友をご紹介したいからです。参加者から「本物の経営者、このような方に毎回講師を務めて欲しい」「自分が未経験の内容の話を知ることが出来て、初めて耳にする文言も沢山出てくる」などを聞くと、社会で活躍する校友にとってビジネス経験や研究活動の経験を聞くことは有意義なことだと実感できました。イノベーティブな研究開発や企業経営をするには、その道で体得された方からの情報をヒントにするのが一番です。参加者の評判は日増しに高まっています。更に充実した実学サロンにして参ります。校友の皆様のご支援、よろしくお願いいたします。

副会長・総務広報委員長 林田 和雄

若い方の参加が少ない、集客に工夫が必要

アンケート（図1参照）からも実学サロンの企画が参加者から高い評価を得ていることがわかります。今回報告の第9回から第13回までに延べ147名の校友が参加しました。その間のアンケートを集計すると「大変良い企画」と「良い企画」の合計が99%となっており、良い企画であるとの評価を得ています。また講演に対するアンケート結果を分析すると「大変良かった」が78%、「良かった」が18%で、合計が96%との結果となっています。参加者から「大変良い講演であった」との評価を得ています。第12回の実学サロンは初の女性講師となった山西陽子先生を迎え開催しました。『医用工学のミクロな世界へようこそ』と題して、針なし注射などの最先端の研究について聞くことができました。参加者40名中9割の方が「大変良かった」と答えています。現状の問題は、良い評価を得ているにもかかわらず毎回30名程度の参加者しかなく、参加者が少ないことです。アンケートの意見にも「若い研究者や学生の参加を増やす方が、講師の先生も遣り甲斐がある」「参加者がいつも同じなので、より情報発信、広報活動が必要」「若い方の参加が全くない。集客に工夫が必要」「参加者が少ない。PR不足か」など、厳しい意見が出されています。事務局では、レピーターを増やすために、下記に示す「実学サロン案内サービス」を始めました。案内を希望される校友は、事務局までご連絡ください。開催案内をメールにてお送り致します。



講演中の山西先生（第12回）



活発な意見交換、質問する加藤浩氏



受講者との交流、質問する泉澤定雄氏

実学サロンの案内は、校友会のホームページをご覧ください。
<http://www.shibaura-koyu.jp/salon/index.html>

実学サロン案内サービス

実学サロンの案内をメールにて希望の方は、メールアドレスと氏名と学科・卒業年次を校友会事務局まで、下記メールアドレスまでご連絡ください。

E-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp



実学サロン終了後の懇親会



懇親会で情報交換をする校友

表 実学サロンの開催一覧（第9回～第13回）

回数	テーマ	講師	所属	卒業
第9回 2014.2.28	高知発・ものづくり企業のおもしろさ	山口 隆士	兼松エンジニアリング(株) 代表取締役会長	1968年 機械工学第二学科
第10回 2014.4.18	開発作業のマネジメント、失敗した軍用機から学ぶ	長江 洋一 工学博士	六興電気(株) 代表執行役社長	2007年(大学院) 地球環境工学
第11回 2014.7.11	3D技術がものづくりを変える <建築業界におけるBIMの普及、その展望と課題>	志手 一哉 工学博士	芝浦工業大学工学部建築工学科 准教授	2009年(大学院) 工学マネジメント研究科
第12回 2014.12.16	医用工学のミクロな世界へようこそ <高速気泡メスの開発と細胞レベルの医療>	山西 陽子 工学博士	芝浦工業大学工学部機械工学科 准教授	1997年 機械工学科
第13回 2015.2.27	メディア興亡のメカニズム <「新聞はネットに食われている」は本当か?>	馬場 康志	(株)朝日新聞社 製作本部 企画監理チーム システム監理担当部長	2010年(大学院) 工学マネジメント研究科

実学サロン：第9回

2014年2月28日 芝浦キャンパス内

高知発・ものづくり企業のおもしろさ

やまぐち たかし
講師 山口 隆士

(兼松エンジニアリング(株) 代表取締役会長)
(昭和43年機械工学第二学科卒業)

今回の講師の山口氏は、四国高知に本社がある兼松エンジニアリング(株) (東証2部上場) に勤務し“ハイテク” 集団ではなく“ローテク” をベースに経験を積み上げてきた技術者の集団を経営者として、環境整備機器では国内トップメーカーに育ててきた実績を持ちます。四国・高知の土佐を拠点にして、都会から遠いなど不利な条件のなかで、顧客の要望に応えたオーダーメイドで、アフターサービスをしっかりとやり、顧客の信頼度を上げることが出来たと語ってくれました。

新しい事に挑戦している高知の会社

皆さん、高知県にはどんなイメージを持っていますか。ペギー葉山さんが歌った“南国土佐をあとにして” で一躍全国に知られましたが、当時はどこにあるの？ そんな感じではなかったでしょうか。

今は高速道路ができ、本四連絡橋がつながって便利になりましたが、それまでは四国の中でも地理的に隔絶され、不便なところでした。私の自慢は坂本竜馬、カツオのタタキ、よさこい鳴子踊りです。“土佐のお客” といって、観光客と一緒に明るく、楽しく、お酒を飲む文化もあります。

そんな高知で、兼松エンジニアリング(株)は昭和46年(1971年)に創業しました。

環境整備機器の開発一筋

公害問題が騒がれはじめた頃で、どうすれば人に優しい環境をつくることができるのか？何をすればこの地球を守っていけるのか？そのことをテーマに環境整備機器の開発一筋に取り組んできました。

そして最初に出来た製品が強力吸引車でした。ホースの中に入るものは全て吸引してしまう、オバケのような掃除機です。これに匹敵するものは他に無かったのですが、無名の会社、都会から遠いなど、市場に評価されるまでには時間がかかりました。しかし、一品一品オーダーメイドでアフターサービスをしっかりとやり、顧客信頼度を上げていき、今日に至っています。

現在の製品はお客様のご要望・ご提案から生まれたものが数多くあります。



ローテク技術者集団をトップメーカーに育てた経緯を話す山口氏



兼松エンジニアリング(株)、本社の全景



工場内の風景

強力吸引作業車

真空圧と空気の流れを利用するとともに、K&E独自の吸引機構により、固体・液体を問わず吸引回収することを可能にしました。道路での側溝清掃、建設現場での汚泥吸引、製鉄所での落鉱石の吸引など随所で能力を発揮しています。

高圧洗浄装車

水流と圧力を利用した高圧洗浄装車で、当社独自の機能で使いやすさを追求しました。

ビルや工場などでの洗浄に幅広く用いられています。中でも、下水道管内部の洗浄に高い評価を得ています。さらに各種噴射ノズルを組み合わせることで用途を拡大できます。

トンネル清掃車

車の排気ガスから出るスス等で汚れたトンネル壁面の清掃と、トンネル内の照度を保つためには欠かせない照明の清掃を、この車両一台で行うことができます。

ブーム先端に取り付けられたブラシを回転、洗浄水を流しながら、壁面を清掃して行きます。

除染作業向け路面清掃車

当社のコア技術である高圧洗浄と強力吸引をマッチングさせた、東日本大震災の復興事業における、除染作業向け路面清掃車です。

低速走行しながら、車両後方に設けた洗浄吸引アタッチメントで路面への高圧水噴射、洗浄汚水の吸引回収を行います。

4基の円盤状洗浄吸引アタッチメントにはカバーを取り付け周囲への汚染水飛散を防ぎました。運転席に設置されたモニターから作業の様子を確認できるため、一人で安全で効率的な作業が可能です。

減圧蒸留型抽出装置

マイクロ波を利用して様々なバイオマスから有用成分を抽出する装置です。

真空ポンプでタンク内を減圧することにより、低温で高品質の有用成分抽出を可能にしました。

従来の水蒸気蒸留法に対して抽出効率が良く、生産性が向上するとともに大幅なコスト低減が可能です。



講師の山口隆士氏

【講師略歴】

山口 隆士氏

1968年 3月 機械工学科第二学科卒、同年4月(株)セツ板紙入社(尼崎市)

69年 9月 郷里高知の(株)ヤマサに入社、77年6月兼松エンジニアリングに出向

79年 8月 兼松エンジニアリングに入社、81年9月東京営業所に転勤

91年 11月 取締役就任、現在に至る。代表取締役会長(現在)。



強力吸引作業車



高圧洗浄装車



トンネル清掃車



除染作業向け路面清掃車



減圧蒸留型抽出装置

開発作業のマネジメント、失敗した軍用機から学ぶ

なが え よう いち
講師 長 江 洋 一

(六興電気株) 代表執行役社長、博士 (工学)
(平成 19 年地域環境工学専攻)

今回の講師は、六興電気株(東京・港区)の長江洋一代表執行役社長です。1949年の創業以来、いくつもの困難を乗り越えてきました。可能にしたのは変わり続けることだと伺いました。長江社長、経営実績の他にプロの航空写真家としての実績もお持ちです。航空機の開発マネジメントに関わる問題を戦時中の事例に基づいて検証してみると、プロジェクトの失敗は、運用思想やプロジェクトの進め方といったマネジメントに問題があったとお聞きしました。

売れない車や、役に立たないソフトウェア、採用されなかった工業規格のように、エンジニアリングの世界において失敗は珍しい事ではありません。しかし失敗の原因を分析すると、技術の欠如や予算の不足が要因ではなく、基本構想や運用思想、さらにはプロジェクトの管理にまつわる問題が多く見受けられます。

軍用機は限られた時間と(事実上)無限の予算という理想的な環境のもとで開発され、成功と失敗は誰の目にも明らかとなる特徴があります。しかも民間企業のプロジェクトと異なり、数多くの失敗例が開発過程とともに記録されているので検証が可能です。そこで本実学サロンでは軍用機を例に、プロジェクトが失敗する要因について考察を行ないました。



失敗の原因にプロジェクト管理上の問題が多いと語る長江洋一氏

1. 運用思想そのものに問題があったプロジェクト

ベトナム戦争当時、米国陸軍はジャングルに潜むベトコン相手に苦戦していました。現場からは高いところから敵を発見し、有利に戦いを進めたいという強い要望が挙げられました。そこで陸軍は、歩兵が手軽に使える飛行機械を構想し、これに乗って木立よりも高いところまで上昇し、敵を見つけたらライフルで狙撃するという運用思想を示しました。これを受けてヘリコプターメーカーのヒラー社は、VZ-1 Flying Platform (図1)を開発しました。VZ-1は安定して飛行し、陸軍の要求仕様を全て満足しました。しかもジャングルでの使用に配慮し、高度な保守作業を必要としないシンプルな構造で、飛行訓練を受けたことがない一般兵でも十分に扱うことが出来ました。しかしVZ-1が実戦に使われることはありませんでした。

VZ-1の失敗要因は、その運用思想にありました。つまり、VZ-1が上昇した瞬間に、歩兵は恰好の目標となってしまい先に撃たれてしまいます。陸軍は、「運用構想そのものがファンタジーだった」というコメントとともに、VZ-1プロジェクトを放棄しました。現代でも、ジャングルでの戦いは当時とそれほど変わらず、敵を先に見つけるのは最重要事項です。イスラエルでは、兵士が手投げで発信させる小型の木製偵察機、RQ-11 Raven (図2)を採用しています。ベトナムで本当に必要だったのは、こんな兵器だったのでしょうか。現場の声は重要ですが本質をついていない事があり、本当に必要かを冷静に見つめなければならないという教訓です。

実学サロンでは同様の例として、爆撃機に搭載される戦闘機XF-85Goblin (図3)も紹介しました。



図1 VZ-1 Flying Platform



図2 小型の木製偵察機、RQ-11 Raven

2. ずさんなプロジェクト管理

太平洋戦争当初、アメリカは本土防空用に上昇率に優れた高速戦闘機を必要としました。陸軍航空隊は、実績のある機体の一部を流用して開発を求めましたが、これは開発期間の短縮とともに航空機製造の経験が少ないメーカーが担当することで、繁忙を極めていた航空機製造会社の負荷軽減も狙った方針でした。

このような背景から、新型機は自動車のボディーを架装していたフィッシャーボディーに発注されました。フィッシャーボディーは基本方針に従い、基本レイアウトを初め主翼、後部胴体、着陸ギア等を別々のメーカーから流用しました。エンジンは実績のあるV12エンジンを2基結合して、必要とされる高出力を確保しました。ところが戦局が進むにしたがって本土防空の必要性は薄れ、かわりに爆撃機の護衛が求められるようになりました。

そこで航空隊は、使用目的を長距離護衛戦闘機に改めました。こうして完成したのがXF-75 Eagle (図4)です。テストを行なって最初に発覚したのは、重心位置の計算が間違っていたことでした。そのため翼や胴体は再設計されました。またエンジンとプロペラを繋ぐ延長軸の振動も発生しましたが、これは基本レイアウトを流用したP-39で発生した問題で、エンジンもパワー不足で操縦性は劣悪でした。

本件の失敗原因は、フィッシャーボディーの技術力や、部品の寄せ集めが原因ではなく、本質は、発注者のプロジェクト管理にあると考えています。既存部品の流用はよく用いられる技法ですが、すり合わせに高度なエンジニアリング能力が必要となります。それにもかかわらず航空機の経験が全くないフィッシャーボディーが、作業負荷だけの理由で選定されました。発注者には、寄せ集めなら誰でも作れるだろうという安易な考えが感じられます。しかも最初は高速戦闘機としてスタートしたプロジェクトを、途中から長距離護衛戦闘機に変更しています。

また、重心位置のようにクリティカルなパラメータは発注者側も実機製作前に確認すべきですが、これも実施していません。延長軸の振動も良く知られていた問題で、基本レイアウトを(流用して)選定する際に、よく検討すべき事柄でした。XP-75は、どんな飛行機を作るのかはっきりしない中で、寄せ集めで作るという方法論だけが先に決まってしまうました。しかも不慣れたメーカーを指導すべき発注者は、何の管理もしませんでした。

寄せ集めで成功した事例として実学サロンの中でP-51D Mustangを2機繋げたF-82 Twin Mustangを紹介いたしました。またプロペラ推進で超音速を狙ったXF-84H Thunder Screech (図5)も紹介しました。これも、余剰となったターボプロップエンジンを有効利用しようとしたもので、音と振動が激しすぎるためにパイロットは操縦できませんでした。



図3 爆撃機に搭載される戦闘機、XF-85 Goblin



図4 長距離護衛戦闘機、XF-75 Eagle



図5 超音速、XF-84H Thunder Screech

3. まとめ エンジニアは技術とともにプロジェクトの運営方法も学ぶ

コンピュータもない時代に、飛行機の開発は試行錯誤の連続でした。戦争という時間的に余裕がない中で本質を深く考えずにプロジェクトが進められる例も多数ありました。そのときに得られた知見は、現代の飛行機に生かされています。プロジェクトの進め方にも大きな影響を与えています。

本講義で紹介した失敗例は、技術の発達した現代でも起こりうるもので、我々エンジニアは、技術とともにプロジェクトの運営方法も学ぶ必要があります。



講師の長江洋一氏

【講師略歴】

長江 洋一氏 工学博士
芝浦工業大学 地域環境工学専攻 博士課程満期退学 昭和52年4月 本田技研工業株式会社 入社
昭和62年4月 Seagate Technology Japan 入社
平成元年11月 Conner Peripherals Japan 入社
平成4年11月 六興電気株式会社 入社 平成11年12月 同社 副社長
平成15年12月 取締役兼代表執行役社長に就任(現在)
経済同友会幹事、航空ジャーナリスト

3D技術がものづくりを変える

— 建築業界における BIM の普及、その展望と課題 —

講師 ^し ^で ^{かず} ^や 志手 一哉

(芝浦工業大学工学部建築工学科准教授、博士(工学))
(平成21年大学院工学マネジメント研究科修了)

今回の講師の志手一哉氏は、竹中工務店の研究開発部門などで幅広い実務経験をお持ちです。2014年4月から本学の教壇に立って学生の指導にあたっています。3Dプリンターで家を立ててしまおうという取り組みが現実になりつつあります。志手氏は BIM (ビルディング・インフォメーション・モデリング) をはじめ、この分野の研究に取り組んでいます。「建築業界のプロセス変革が起きようとしている」の事例を含めて聞きました。

BIM とは何か、仮想建築を事前につくる

建築の世界における3次元データの活用は、面や立体で仮想建築を構成する3次元CADやCG (Computer Graphics) と、具体的な物を配置して仮想建築を構築するオブジェクトCADに大別されます。後者のオブジェクトCADは、1980年代から米国のスタンフォード大学にあるCIFE (Center for Integrated Facility Engineering) を中心に研究が進められてきました。

日本においても2000年頃に大手総合建設業(ゼネコン)の技術研究所が基礎的な研究に取り組んでいました。その後、2005年頃から米国を中心に BIM (Building Information Modeling) という言葉が流通し始め、それを扱うソフトウェアが販売されるや否や、世界中で普及するに至っています。いまや、建築産業のものづくりでは、3次元CADとBIMという言葉が同じ意味で使われていると言って過言ではありません。

BIMとは、柱や壁、エアコンや配管といった建築物を構成するパーツを組み上げて建物のモデルをコンピュータの中に構築します。各々のパーツのモデルは自分自身がどのような建築部品なのかという情報を与えられています。例えば「引違い2枚窓」というパーツであれば、高さや幅で規定される大きさや窓枠の寸法など、実際の部品調達で可変可能な部分だけが変更可能となっています。また、「窓」のパーツは「壁」のパーツにしか取り付けられない、逆に、「壁のパーツ」は「窓」のパーツが取り付けられたらその部分には穴が開くというように、パーツ相互の関係性も厳密に規定されています。このような仕組みを使い、意匠、構造、設備、機械類のモデルを各々の担当者が構築し、それらを重ね合わせることで実物と変わらない仮想建築を事前に作り上げていくことができます。このようなモデルを利用して従来の2次元図面ではわかりにくかった3次元空間内の部品同士の干渉を施工の前に解決しようとする取り組みが、BIMの黎明期である2011年頃に行われました。私の調査では、2次元図面だけでこのような干渉問題を解決しようとした場合と比較して、BIMを活用した場合は約30%の工数削減が可能となることを明らかにし、この工数のことをコミュニケーションコストと名付けました。このコミュニケーションコストの削減こそゼネコンの実務者がBIMに取り組む最大のインセンティブだったわけです。その後、2013年頃までに、BIMモデルから2次元図面を作成する取り組みが行われ、従来の作図工数と変わらない費用でBIMモデルを構築することが可能となりました。現在、業界におけるBIM活用の話題の中心は、建築コストの管理や施設維持運営・管理といったマネジメントにBIMモデルを活用することに移っています。私自身は、前職の竹中工務店技術研究所在籍中、2008年からこうした取り組みの実践的研究に従事してきました。



3D技術の可能性を話す志手一哉氏



BIMモデルの例

建築ものづくりにおける 3次元技術活用の最先端

上述したような BIM は、建築のライフサイクルマネジメントに主眼を置いた技術と言えます。一方、施工と直結するような建築ものづくりにおける 3次元データの活用は、BIM と異なる経路で発展しています。1つの流れは部品の最適設計です。例えば、複雑な形状の建物を覆う外装パネルを最も制作コストが安くなるように割り付けるにはどうするか、という問題をコンピュータで演算して検討する「Penalization」が挙げられます。この手法を得意とするのが、新国立競技場のデザイン監修を務めるザハ・ハディッド・アーキテクトです。

2つ目の流れは NC 加工機の活用です。例えば、ヤマザキマザック社の 3次元レーザー加工機は、直径 400mm のパイプか片 300mm の角材で、長さ 8m、板厚 16mm、重量 480kg を上限とした型鋼に、3次元ヘッドから照射されるレーザーで、丸穴加工、直線加工、斜め加工、開先加工など自在な切断が可能です。この加工機を利用して作製した部材を組み上げて建設した建物が実在します。2014 年頃に話題となった 3D プリンタも、建築ものづくりに活用できる可能性を秘めています。中国では、ノズル先端から抽出するペースト状のセメントを積層して作成した部品で建設した住宅の事例があります。まだ粗雑な品質の躯体に見えますが、近い未来に実用に耐えうる施工方法が開発されるに違いありません。

3次元技術の普及と組織

こうした 3次元データを建築プロジェクトに活用する取り組みが増えていますが、爆発的な普及に至っているとは言えません。その障害として挙げられるのは、第 1 に、組織の壁だと思えます。従来のビル建築は、大量生産された建築部品を組み上げて構成するので、設計者は、建築全体の設計を行うが、個別部品の設計を手掛けないのが一般的です。しかし、3次元技術を応用して制作した個別生産自動加工部品を組み合わせた建築では、部品の設計と建物全体の設計を並行して行わなければなりません。また、部品制作に適したソフトウェアに精通する必要があります。そのためには、設計の早い段階から、加工機械の仕様や専用ソフトウェアの知識を持つ施工側の人材が関与しなくてはならないでしょう。このことは、設計の役割や責任が不明瞭になることを意味します。したがって、3次元技術の活用に適した品質保証体系や組織構造の改編が、技術の発展と同時進行で進まなければなりません。放っておいても 3次元技術は普及するでしょうから、建築生産の体制は、これから流動的に変わっていくと考えています。

3次元の教育、仕事のやり方を変革できる人材育成を目指す

最後に、私が建築工学科で実践している BIM の教育についてお話をします。私は 3段階の教育を考えています。第 1 段階は、「BIM を知っている、それを利用して自分の仕事を効率化できる」人材の育成で、3年次に 1 年間、Autodesk 社の Revit という BIM ソフトウェアを用い、その操作方法と建築生産分野における BIM ならではの利用方法を演習形式で身に付けます。この授業は毎年約 20 名～30 名が受講します。

第 2 段階は、「BIM を理解している、担当業務の業務改善に活用できる」人材の育成です。BIM ソフトウェアを利用して、有名建築の積算・見積りをしたり、カーテンウォール取り付け部のディテールを BIM でリバーシ・エンジニアリングしたりする実践的な演習をします。これには、3年次後期に開催する私のゼミを希望した 10 名の学生が取り組みます。

第 3 段階は卒業研究で、「特定の 3D 技術を熟知している、それを武器に仕事のやり方を変革できる」人材の育成を目指しています。今年は私の研究室に配属となった学生の内、4 名が BIM に関連したテーマに取り組んでいます。BIM は未だ発展途上の段階にありますので、概念やルール、ソフトウェアの制約などの間に多くの矛盾を抱えています。それを探究するテーマを学生が自ら設定し、様々な方法で研究を進めます。

是非とも校友会の皆様方には、こうした BIM を活用できる人材がいきいきと活躍できる職場環境を整えていただきたいと切に願います。



3年次前期授業の様子



講師の志手一哉氏

【講師略歴】

志手 一哉氏 博士（工学）

平成 21 年 3 月、芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科工学マネジメント専攻専門職学位課程修了

平成 4 年 4 月、株式会社竹中工務店入社、施工管理、生産設計、情報化推進に従事

平成 17 年 4 月、同社技術研究所に転勤、建築生産研究に従事

平成 25 年 3 月、千葉大学大学院工学研究科建築・都市科学専攻博士後期課程早期修了

平成 26 年 4 月、芝浦工業大学工学部建築工学科准教授（現在）一級建築士、1 級施工管理技士、認定ファシリティマネジャー

医用工学のミクロな世界へようこそ

— 高速気泡メスの開発と細胞レベルの医療 —

講師 ^{やまにし} ^{ようこ} 山西 陽子

(芝浦工業大学工学部機械工学科准教授、博士(工学))

(平成9年機械工学科卒業)

講師の山西陽子氏は、本学の機械工学科を平成9年に卒業後、ロンドン大学で博士課程を修了、JST さきがけ研究者としてナノシステムと機能創発領域で実績をあげ IEEE などの学会で受賞しています。「極小の世界で使う『泡』の道具を作る」とのコンセプトで「細胞を小さな気泡のメスで加工」「がん細胞を死滅させる低温プラズマの生成」などと時代を先取りした研究をしています。小さな空間で活躍する医用機器や細胞を手術するための小さな機械のご紹介頂きました。

気泡で細胞を切る「バブルメス」の研究に取り組む

最近の医療の世界では、再生医療や遺伝子工学の研究などの発展とともに「マイクロナノ」という非常に小さな空間で、細胞を操作したり加工したりするマイクロデバイスを開発する医用工学の研究が注目を集めている。人間の髪の毛1本の太さは約100マイクロメートル程度であるが、そのような小さな単位で活用できるマイクロデバイスを生み出すには、機械工学、生物学、化学、電気工学など、さまざまな分野を横断する知識が求められる。

例えば、卵子などの細胞から細胞核を除核する細胞手術をとまう 研究を行う際、そのためのマイクロデバイスの操作には高度な熟練が必要で、扱いやすいものではない。細胞等は培養液中に存在することがほとんどであり、細胞手術を行うためには液中下で低侵襲かつ高解像度の加工技術が求められる。このような細胞を加工する技術の一つには非接触レーザ加工技術があるが、あらゆる固さの幅広い種類の細胞に対応できかつ、安価であり、顕微鏡に簡単に装着可能な技術が求められている。

電気メスは外科手術ではよく使用される堅固で比較的安価な技術であり、人体に高周波電流を流し、メス先に生じるアーク放電や接触抵抗によってジュール熱が発生し、この熱が瞬時に細胞を加熱し爆発・蒸散することによって切開作用を発生させるが、約100年前に発明されてからそのメカニズムにほとんど変化はない。

一方、約30年前に発明されたレーザメスは完成度を上げ続け、細胞とレーザの相互作用は深く研究され、細胞サイズレベルの正確な切除を可能にしている。そこで、細胞手術を行うことができる新しい低侵襲・高解像度な電気メスについての着想に至り、この電気メスの出力を細胞レベルに落とし、ガラス絶縁膜で覆ったマイクロ電極を作成して実験を行った。

小さな気泡で細胞を加工、熱ダメージを与えない

研究当初は細胞を切るマイクロ電気メスは、細胞に熱ダメージを与える、電気分解による無秩序な気泡の発生、電極摩耗、切開後に付着するタンパク質による電極劣化等の失敗続きであった。しかしながら、ある時、電極先端に空隙(バブルリザーバ)を設けた構造で放電した時に、これまで無秩序に発生していた気泡に指向性が存在していることを発見し(図1)、高速度カメラを用いてその気泡を確認したところ、サイズの揃った一列の高速度気泡列であることがわかった。この気泡によって細胞表面も加工できることがわかり、気泡で細胞を切る「バブルメス」という名のデバイスとして研究を進めるに至っている。ガラス電極をアクティブ電極とし、加工対象である細胞を対向電極に接触させて電極間に電圧を印加することで、先端から



幅広いバイオ分野の研究者に使用可能なデバイスを提供と話す山西陽子氏



図1 指向性を有する電界誘起気泡の様子

非常に小さな気泡を連続して高速発射しその気泡が急激な圧力変化によって圧壊する威力で細胞を加工するという方法で、堅い植物細胞でも加工できる力がありながら、加工表面に熱ダメージを与えないといった利点がある。加工対象である卵子は培養液中に存在し、対向電極に接触している。電解質溶液である培養液中へ高速で発射された気泡界面は卵子に近づくと同時にキャビテーション現象を生じて圧潰し、細胞表面を加工する（図2）。

まず電界誘起気泡メスによる細胞加工性能を評価するためにブタ卵子の透明帯の加工実験を行った。図3は高速度カメラ撮影時の卵子加工の様子及び共焦点顕微鏡で撮影した細胞加工後の卵子の断面図である。図よりわかるようにバブルメスより放出された指向性を有する気泡がブタ卵子の透明帯や細胞質を加工していることが確認された。このバブルメスは顕微鏡に装着する汎用マイクロマニピュレータ先端に簡単に装着・離脱可能であり、メス自体の単価も安価であるために、幅広いバイオ分野の研究者に使用可能なデバイスであると考えられる。

針無し気泡注射器の開発

また、バブルメスの先端に試薬をためる部分を作っておくと、打ち出された気泡は、その試薬を付着したまま液中を数百 μm 時に試薬導入・遺伝子導入等が可能であることを確認している。この特異な液中現象を利用する電界誘起気泡インジェクションメスはキャビテーションの破壊力と気泡の付着性による高い輸送能力を同時に利用したデバイスであり、これまで困難であった幅広い種類の細胞へのインジェクションが期待されている。最近では、これまで培養液中で使用していた気泡インジェクションメスを改良し、空気中でも使用可能なデバイス（針なし気泡注射器）となり（図4）、インジェクションの用途が格段に広がりました。また、出力を上げて気泡とプラズマの両方の効果を利用した新しい難切削加工装置としてプラズマキャビテーション加工デバイスも開発しております。また一方で気泡の気液界面にはいろいろな分子を付着させることが可能であり、例えばたんぱく質分子を付着させ、気泡を圧壊させずに収縮・凝集することによるたんぱく質結晶生成技術への応用などについても研究を進めている。

エンジニアの常識にとらわれず、特異な現象をつかむ

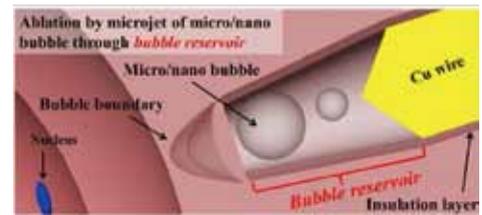
このようなバブルメスをはじめとしたマイクロデバイスの開発が進むと、生物学や遺伝子工学の研究をさらに容易にし、医療現場だけでなく、薬の研究や動植物の品種改良などでも、大きな後押しになるのではないかと期待されている。マイクロナノという特異な空間では思いもよらない現象が起こることも多いため、エンジニアとしての常識にとらわれず、さまざまな現象に関心を持ちながら研究を進めていくことが、医用工学の進化につながっていくと信じている。



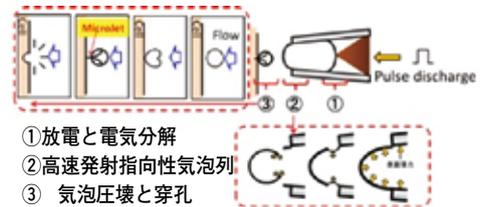
講師の山西陽子氏

【講師略歴】

- 山西 陽子氏 博士（工学）
- 1997年 芝浦工業大学機械工学科卒業、2003年 ロンドン大学インペリアルカレッジ博士課程修了。
- 2004年 芝浦工業大学機械工学科特任講師、2008年 東北大学大学院工学研究科助教、
- 2009年 JST さきがけ専任研究員（ナノシステムと機能創発領域）、
- 2011年 名古屋大学大学院 工学研究科准教授、
- 2013年 芝浦工業大学機械工学科准教授（現在）。JST さきがけ兼任研究員（細胞機能の構成的な理解と制御領域）、専門はマイクロ混相流体力学、BIO-MEMS等の研究に従事。IEEE、日本機械学会等。
- 2014年 本大学女性在校生・卒業生のための「Shiba-jo プラチナネットワーク」の代表。



(a) 概念図



(b) 気泡キャビテーションによる細胞加工
図2 細胞加工のメカニズム

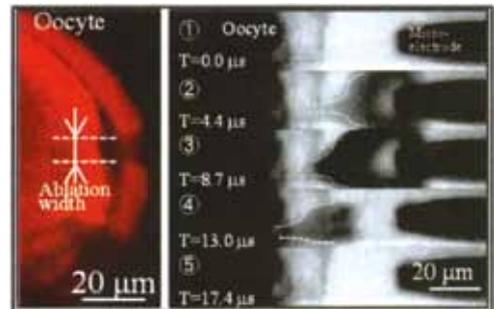


図3 ブタ卵子加工時の高速度カメラ画像及び共焦点顕微鏡画像

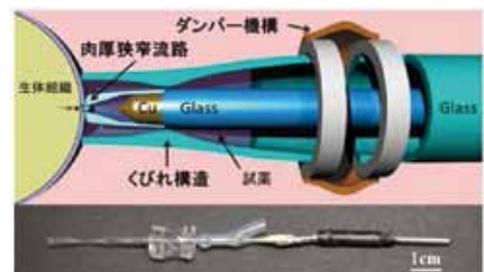


図4 空気中使用可能な針なし気泡注射

実学サロン：第13回

2015年2月27日 芝浦キャンパス内

メディア興亡のメカニズム

－「新聞はネットに食われている」は本当か？－

講師 ばば やすし
馬場 康志

(株)朝日新聞社制作本部企画監理チームシステム監理担当部長)

(平成22年大学院工学マネジメント研究科修了)

今回の講師の馬場康志氏は、朝日新聞社で基幹システムやデジタル系サービス関連の各種プロジェクトを担当され、幅広い実務経験をお持ちです。また、本学の大学院工学マネジメント研究科(MOT)を、朝日新聞社に働きながら平成22年に修了されました。今回は、新聞とデジタルメディアの両分野を経験されてきた立場から、新聞業界が置かれた状況と今後の展望について『メディア興亡のメカニズム』と題してお話をお聞きしました。

新聞はネットに食われている？

「新聞の衰退」を指摘する声が、業界内外で大きくなってきました。この10年で、国内の新聞発行部数は約5.3千万部から約4.5千万部と14%以上減少し、新聞広告費は約1.1兆円から約0.6兆円へと40%以上も減少しています。



「インターネット普及前に減少」と話す馬場氏

新聞発行部数が継続的に減少に転じたのは2000年からで、この頃インターネットが急速に普及率を伸ばしていたことから、「新聞の衰退」の主な原因はインターネットであるとする声が、業界内外では支配的になっています。しかし、この議論は多少乱暴で、インターネットの「普及率」と比較するのであれば、新聞も「普及率」でその増減を評価すべきです。実は、新聞の世帯普及率は1990年代の前半には減少に転じており、インターネットが一般家庭に普及しはじめた1995年より前のことです。現在の「新聞の衰退」をもたらした真の要因は、インターネット普及のはるか以前に発生していたのです。

半世紀をかけて襲い来る「波」

新聞発行部数の減少は新聞読者数の減少を意味します。図1はNHK「国民生活時間調査」から「新聞行為者率」(1日に15分以上新聞を読んだ人の割合)を調査年次別に示しています。1975年までは20歳代から70歳代まで全ての年齢層で行為者率が向上していましたが、1985年から2005年にかけて、行為者率の最も高い年齢層が次第に高齢化し、その年齢層より若い層で行為者率が低下している傾向が見られます。このデータを世代別に見たものが図2で、1946～55年生まれの世代から、前の世代より明らかに行為者率が低下していることが見て取れ、この変化は先行研究でも実証されています。

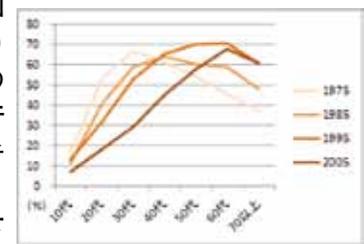


図1 新聞行為者率(調査年別)の推移

各世代のメディア接触行動は、概ね20歳代までに形成され、以降は加齢しても大きく変化しないことがわかっています。つまり、1946～55年に生まれた世代の行為者率は、1955～75年を中心とする期間に発生した「何か」によって影響を受けたと考えられます。一方では、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の4マス媒体に対する接触時間は、1976年以降ほとんど変化していないこともわかっており、この間に新聞行為者率が減少した原因は、新聞以外のマス媒体にあると考えられます。つまり、1953年に放送が開始され、1965年までに世帯普及率が90%を越えるまでに爆発的に普及した「テレビ」が、以降の世代の新聞行為者率を低下させ続けた「真の要因」と考えられるのです。

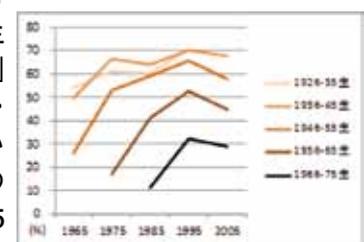


図2 新聞行為者率(世代別)の推移

テレビが1946～55年生まれ世代にもたらした新聞行為者率の低下傾向は、図2に見るように後続の世代に拡大されながら引き継がれ、各世代は低下した行為者率のまま加齢するため、その総和となる各年次の行為者率は、図1に示すように「波」が高齢側に押し寄せるような変化を見せるのです。そして2005年の調査では、全ての年齢層で1995年の行為者率を下回る結果となりました。テレビ出現以来、実に半世紀をかけて、「波」は全世代を覆ったのです。

なぜ「波」に気付かなかったか

図1の行為者率に、各年の推計人口をかけたグラフを図3に示します。このように1995年までは全体としての「量」は増加していますが、40歳代以上の年代が占める割合が順次増加し、読者層の高齢化という「質」が同時に変化していたことがわかります。実際に、1990年代後半まで国内の新聞発行部数は増加し続けました。発行部数の増加は業界の成長を意味し、足下の成長に目を奪われるあまり、深刻な「質」の変化を軽視していたのかも知れません。2000年以降に発行部数が減少し始めたとき、たまたま数年前から爆発的に普及したインターネットがその原因であるかのような「錯覚」を業界が起こしたのも、長年にわたる本質的な変化を軽視していたからでしょう。

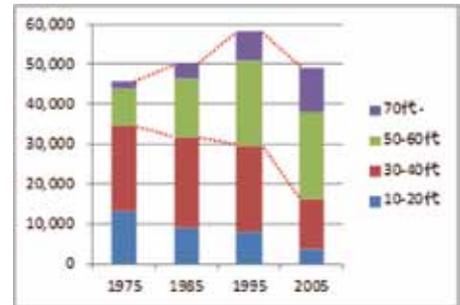


図3 新聞行為者率 × 推計人口

もう一つ、業界が「真の要因」に気付かなかった理由が考えられます。それは、ハーバード大学のクリステンセン教授が著書「イノベーションのジレンマ」で指摘した「破壊的イノベーションの法則」です。既存製品は利益率を高めようとして、いつしか市場が要求する性能以上のものを提供してしまい、一方では収益率が低く小規模な市場で発生した「破壊的製品」が、いつしか既存製品の市場が求める性能を凌駕すると、市場の選択は性能以外の価値（価格など）に移行してしまうというものです。

テレビ放送が始まった1953年当時、朝日新聞は朝夕刊1週間分で約80ページをお届けしていました。しかし、販売の現場からは「ボリュームのある紙面を」との要求が強く、生産設備の性能向上なども相まってこのページ数は時代とともに増加していき、現在では約430ページをお届けしています。しかし、前述したように国民のマス媒体接触時間は長期間ほぼ一定であることから、このページ増はどこかで「市場が要求する性能」を追い越してしまった可能性があります。

一方テレビは、放送開始当初はフィルム現像等の問題で、ニュースの速報性や詳報性の点で新聞とは比較になりませんでした。しかし、1970年代から80年代にかけて、特集・解説を充実させた大型ニュース番組や、朝・昼・夜の大型情報番組などが続々と登場し、いまやゴールデンタイムを除き早朝から深夜まで大型ニュース番組がずらりと番組表を埋めています。

その結果、NHK「日本人とテレビ・2010」調査では、ニュースの速報性・わかりやすさ・詳報性・選択性など、ニュース媒体として求められるほぼ全ての「性能」について、テレビが新聞を上回っていることが示されています。月額利用料など価格面では、新聞はテレビやインターネットに対し優位性はありません。このように、テレビ側の長年の努力もあって、新聞は「破壊的イノベーションの法則」に陥っているのです。

おわりに

MITのセンゲ教授は著書「最強組織の法則」で、企業の競争力育成のため「組織学習」の重要性を説き、それを妨げる「学習障害」の要因の一つに「個々の出来事にとらわれる」ことを上げています。組織にとって主要な脅威は「不意の出来事からでなく、徐々にゆっくり進行するプロセス」から発生し、「人々の考え方が短期的出来事に支配されている組織では、生成的学習は維持できない」としています。新しい出来事を追い続けるのが使命の新聞業界だからこそ、この「学習障害」により深く陥ってしまったのかも知れません。他山の石として下さい。



講師の馬場康志氏

【講師略歴】

馬場 康志氏

京都大学工学部情報工学科卒業後、1988年朝日新聞社に入社。デジタル系サービス、情報セキュリティ、基幹システム構築などを担当した後、経営戦略室主査、社長室主査。現在は、製作本部企画監理チームで設備投資審査を担当。製作本部企画監理チームシステム監理担当部長。2010年、芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科修了。

支部活動報告

北海道支部

支部幹事長 武市 雅敏 土木工学科 昭和45年卒業

本年、北海道支部は創立50周年を迎える事になりました。これは全てみなさま方のご支援ご協力の賜と感謝している次第です。

北海道支部は、現在旭川、函館、帯広、北見、釧根の地域分会が結成され交流も益々深まっております。各都市から札幌まで特急で3、4時間の旅になります。北海道支部は、昭和41年支部結成いたし当初札幌雪祭りの土曜日に総会を開催してまいりました。本学からは毎回、理事長、学長、校友会会長等の来賓のご出席を賜っております。総会を札幌にライラックの香るこの時期に開催するのは、平成2年第25回記念大会からでございます。

本年は5月23日(土曜日)京王プラザホテルにて開催いたします。総会前には、村上学長による記念講演『超電導新時代の幕開け』をして頂きます。

平成27年度新役員

支部長	高野 義昭 (土木 48)
副支部長	香山 晴美 (建工 47)
	鴻池 洋志 (電子 53)
	藤原 一夫 (機械 50)
	佐藤 徳男 (通信 48)
幹事長	井上 秀人 (金属 57)
会計	山根 克史 (建築 47)



宮城支部

支部長 鎌田 正夫 建築工学科 昭和46年卒業

東日本大震災の発生から5年目を迎え「復興まちづくり」が、ようやく目に見える形となりつつあります。これまでご支援を頂いている多くの方々には、この場を借りて、お礼申し上げます。

さて、宮城支部は昭和56年に正式に設立され、今年で35周年の節目を迎えることができました。主な活動としましては、6月の定時総会・懇親会をはじめ、2月の新春交流会、春と秋に親睦ゴルフコンペを開催するなど、世代を超えて会員相互の親睦を深めております。

また、大学主催、航空宇宙技術振興財団共催による「少年少女ロボットセミナー in 仙台」への参加協力や東北六県の支部長による交流会を春と秋に行うなど、支部外との交流も積極的に行っております。

さらに、本年度からは平成卒業生を主体とした部会を設置し、若い卒業生だけの行事等も行っていく予定であり、より一層、校友の輪を広げていけたらと考えております。

近年、支部の運営も拡大してきており、宮城支部は今後も支部発展のため役員一丸となって頑張ってまいりますので、県在住の卒業生で支部登録されていない皆様、ご連絡をお待ちしております。



新春交流会
平成27年2月19日

秋田支部

支部長 渡邊 淳悦 建築学科 昭和51年卒業

平成26年度の秋田支部総会は例年通り7月第一金曜日と決めていましたので、7月4日「秋田ビューホテル」にて開催いたしました。来賓として学校から理事で事務部次長の山下修様、校友会から副会長の郡司卓臣様のご出席、さらに今年度から後援会(在学生の父母の会)の役員のご出席をいただくことになり、会長の早坂潔様、東北支部長の改正ひとみ様、副支部長の斉藤勝俊様の御三方、そして秋田支部会員21名を含め総勢26名の参加による総会となり、大いに盛り上がりました。学校、校友会の来賓の方々からは、著しく発展している母校の近況などをお話しいただいたりして、心が高鳴る思いに浸りました。さらに後援会の方々からもご挨拶をいただき、在校生への暖かい多くの支援状況の数々を拝聴して今の学生は素晴らしい環境の中で学生生活を送っていることに改めて感心しました。

大学とは当然に学生が主役ですが、その主役を取り巻く多くの方が学生の行う色々な活動をしっかり支えて、充実したキャンパスライフを送ってもらうことで、より魅力ある大学になっていくと思います。芝浦工業大学は着実に確実にその域に達してきたと感じています。益々、校友会の絆を広げていく事が私たち支部会員の第一歩です。皆で参加をして自らの人生の足跡を見つめてみましょう。



山形支部

支部長 川越 進 土木工学科 昭和46年卒業
事務局長 野々村則夫

昨年度は、山形支部の分会として「置賜地区」「庄内地区」がそれぞれ設立されました。

庄内地区分会を平成26年11月8日に開催し、支部行事には初参加となる9名と支部役員8名の合計17名で懇親を図り、学生時代の思い出話を花を咲かせました。今年度は、「置賜地区」「庄内地区」での分会・懇親会を開催し、支部総会とあわせて31名以上の参加者を目指して活動して参ります。



福島支部

支部長 濱田 英晴 二部機械工学科 昭和45年卒業

平成8年7月10日平川憲甫（昭和32年電気）支部長、佐川節男（昭和20年機械）事務局長により設立されました。2代目支部長、兼事務局長として佐川節男氏が永きに渡り福島支部を盛り立てて来ました。その労をねぎらい平成24年本部より功労者表彰されました。

平成23年9月より東日本大震災、原発災害にめげず新体制で活動始めました。

佐川前支部長が築いたアットホームな支部です。昨年（平成27年）10月には宮城支部さんにも参加頂き、高杖セミナーハウスにて1泊2日の懇親会を開催致しました。大変楽しいひと時を過ごしました。

震災後4年たちましたが、支部会員の中にも未だに帰還できない方もおられますが、元気に総会、懇親会等に参加していただいています。

福島在住の卒業生の皆様の御参加をお待ちしております。



平成26年6月 福島支部総会

栃木支部

支部長 宇塚 典夫 土木工学科 昭和37年卒業

全国各地で、ご活躍の校友の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。栃木支部は昭和59年8月に第1回支部総会を開催してから、平成26年8月に30周年を迎えることが出来ました。この間、校友会本部や多くの会員の方にご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。この30年間の記録を後輩に残すとともに、今後の支部活動のさらなる活性化を目指して、平成27年3月に「栃木支部30年のあゆみ」を発刊いたしました。

平成26年度の「栃木支部総会」は、昨年11月8日（土）に大学より菅沢茂理事、校友会本部より谷川潮副会長のお二人のご出席を賜り、会員28名の参加のもと、総会、研修会、懇親会を開催し、会員相互の親睦を深め、情報交換の場となりました。

最後に、今後とも、栃木支部の活性化を目指すとともに、芝浦工業大学の発展に寄与し、校友会の輪を更に広げていく所存でありますので、皆様方のご支援ご協力をお願いいたします。平成27年度支部総会は、平成27年11月14日（土）に予定しております。会員の皆様の参加をお待ちしております。



平成26年度栃木支部総会「ホテルニューイタヤ」

東京総支部

支部長 大丸 征史 電子工学科 昭和39年卒業

東京総支部は9年目を迎えました。東京を中心に多くの卒業生が活躍しておりその活性化を目的に設立され現在会員は340名です。

しかし、各支部の共通の悩みである若手卒業生が少数で、その一環として校友会活動を知ってもらうために取り組んでいます。

毎年9月に父母懇談会が二日間開催され、懇親会には300人以上のご父兄が出席されます。毎回支部から15人以上の若手卒業生に就職時の経験談を披露していただき好評を得ています。

また、11月の支部総会には女性卒業生と文武両道で頑張っているクラブの学生を招待しています。既に野球部（硬式、準硬式）陸上部、ラグビー部、剣道部等の若者と懇親を深め盛り上がりしております。学生諸君も普段の努力を評価されていることが明日への挑戦に繋がると喜んでおり是非継続していきたいと考えています。

校友会も母校のグローバル化に伴い海外支部を発達させ益々躍進しており、東京総支部もその一助になるべく努力いたす所存です。



多摩支部

支部長 谷川 潮 機械工学第二学科 昭和45年卒業

多摩支部は、昭和47年に校友会本部から東京都に5支部（中央、城西、城南、城北、多摩）設立の要請を受け、東京都の区域を除いた全地域の支部として設立した支部です。この間、校友会本部や会員の皆様など多くの方にご支援ご協力をいただき受け継がれてきました。現在の会員数は800名です。支部活動は

1. 会員相互の交流を図る
2. 母校及び在校生に対し支援活動を図る
3. 本部への協力
4. 会員の支部活動への参加呼びかけ

等々の事業計画で行っております。

2項での箱根駅伝出場に向けての支援では、恒例の「箱根駅伝予選会」は開催地東京都立川市の昭和記念公園で行われ、多摩支部地域に在ることから多摩支部は支部挙げての応援を行っております。応援のための校友会陣旗も同じ陣旗に多摩支部名を入れた陣旗を作り多数の多摩支部会員とその家族も参加し、同じ芝浦選手を応援に来た方々と一緒に熱い応援を行いました。本年も目的の本予選に早く出場出来る様に多摩支部名の入った校友会陣旗を高く掲げ、選手に対し黄色い声で支部一同一生懸命応援したいと思います。

今後とも、会員の多摩支部活動への参加を呼び続け、多摩支部の更なる活性化と校友の輪を広げ、芝浦工業大学の更なる発展に寄与いたします。

今年度支部総会は11月13日（金）を予定しております。会員の皆様の参加をお待ちしております。



神奈川支部

支部長 安藤 脩二 電気工学科 昭和 35 年卒業

神奈川支部は昭和 61 年に発足し、28 年目の活動に入っています。田町校舎からの地の利でしょうか、7,200 名もの大勢の校友会員が県内に在住しています。以前、卒業生に対し神奈川支部入会の案内を出し、500 名の賛同を得て活動してきました。しかし、近年は個人情報保護法もあり新卒業生や住所変更者への加入案内が困難になっています。そこで、大学広報課のご協力を得て、神奈川支部の活動案内文書を大学広報誌に同封して 7,200 名全員にお知らせしています。



活動の主体は、校友会全国総会への近隣支部としての前線的な参加応援です。毎年支部総会を開催し、同時に講演会と会員相互の懇親を行なっています。さらに、会員がご家族と楽しく遊べる場として湘南の海岸で地引き網を開催しています。毎年約 100 名の方が網を引き魚に触れて楽しんで頂いています。このような活動を実施する為に役員 20 名で 2 ヶ月毎にスキップを持つ為に役員会を開催し、支部活動の企画や運営について協議し、又、本部や大学の情報を受けて色々な活動に対する協力体制を作り上げています。今後は、更に会員相互の親睦の輪を広げる為に、イベント毎の参加者を増やす仕組みと新しいイベントの企画を推進して行きます。

長野支部

支部長 北村 武彦 建築学科 昭和 45 年卒業

長野支部の活動は、支部総会（長野市周辺）と、県下に二つある地域の会、すなわち諏訪会（諏訪市周辺）、中信会（松本市周辺）の総会であって、その他といえば母校や校友会から依頼される事業等の後援、協力です。特記すべきことは残念ながら、総会後の懇親会は酒が仲介となって、学校の活動状況を拝聴して気焔を揚げ、会員の近況で交歓の場となりたち、楽しんでいます。資金面は、恒例的に事業をなすほどでは残念ながらありません。会員数も先細りの気配があります。軽費で魅力的な事業が毎年実行できるならば参加者数が増えるのですが、未だそれを探し当てていません。

支部の現況は、事業実施より会員の新陳代謝に投資する必要がある状況です。

支部設立時からの会員は高齢化し、総会出席がおぼつかなくなり、また往復葉書で総会案内をしても半数は返信もない状況となっています。今年からは、旧来からの会員で数年来返信のない校友を除外し、40 代半ばから 50 代半ばの新たな校友に的を絞り、案内を送りました。できるだけ同世代の校友を集め、以後中核となっただけ目論見でした。それが功を奏したのか 4 名の新たな校友を迎えることができました。



2015 年 1 月 24 日 長野支部新年総会にて

新潟支部

支部長 臼井 静男 土木工学科 昭和 48 年卒業

芝浦工業大学校友会新潟支部は新潟支部・中越支部・上越市の 3 支部に分かれております。

毎年の新潟支部総会は、新潟市・長岡市・上越市で持ち回りで総会を開いております。昨年平成 26 年度の総会は、新潟市の新潟駅に隣接するチサンホテルの会場で 10 月 24 日に開催されました。新潟 3 支部から会員・同窓生が集まり、支部長の挨拶に始まり、決算報告、議事進行等行いました。

大学より教授 1 名、校友会役員 1 名の両名よりご講演をいただき、大学の近況 校友会の最近の状況をお聞かせいただき大変有意義でした。総会終了後、懇親会を開き 31 名が出席しました。大いに飲んで大いに語り、会員相互の親交、親睦を深め、大変盛り上がりしました。

これからも、校友会新潟支部は芝浦工業大学のサポートの地方組織としての役割を遂行していく考えであります。それと並んで、校友会新潟支部会員相互の和を大切に、大いに親睦を深める活動を行っていきたくと考えております。



26 年度 新潟支部総会

石川支部

支部長 小杉 俊明 建築学科 昭和 43 年卒業

石川支部は約 60 年の歴史があり会員数は 200 名強でございます。

諸先輩方のご努力、ご活躍が実を結び、芝浦卒の評価は地元国立大学を上回り、磐石なものと成っており、皆様各方面で大活躍でございます。写真は昨年支部総会の様子で、OB のまたない出会いの場と成っております。

いま金沢は 3 月に北陸新幹線が開通し、最短で東京から 2 時間 28 分と従来の 1/2 となった事や、NHK 朝ドラ「まれ」の大ヒットで拍車が掛かり観光客が殺到し、日本で一番熱い地区となっております。併せて地震が少ない事もあり、表日本の大企業の本社機能の一部移転、工場移転等が目白押しで、今年の地価上昇率が全国一位となりました。

この事は大変喜ばしい事で、これまで当地の大学進学は関西方面が主であったのが、首都圏も射程圏となり芝浦の受験者増が期待できる事、また企業移転は本校 OB が転勤して来る事や卒業生の職場の増加につながり、支部のさらなる発展が期待できると考えております。

本年の石川支部総会は 6 月 19 日金沢スカイホテルとしておりますので、是非、北陸新幹線でおいでになり、ご出席頂ければ幸いです。



福井支部

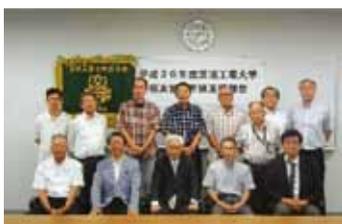
支部長 西浦 正三 土木工学科 昭和45年卒業

第1は、『受験者拡大運動』で、県内各高校の先生方に直接説明し、大学のPRと受験者の拡大に寄与し、支部会員の確保を目的に2008年度から始めた活動である。又、2013年度から、大学の進学課が県内での進路相談会にブースを設けて直接PRをする企画もある。

第2は、毎年7月第4金曜日開催の『定例総会』と懇親会。本部からのご来賓、帰省に併せた県外在住の校友、そして若い校友達の初参加もあり、大変有意義な機会である。

第3は、毎年2月開催の『新年の集い』。

最後に、不定期なものとして『地域ブロック別活動』、『ゴルフ大会』そして会員の近況を校友会HPで全国で紹介する『会員訪問』など、である。



H26.7 支部総会記念写真



H26.10 受験者拡大運動

愛知支部

支部長 平塚 秀雄 電気工学科 昭和40年卒業

当支部では、県内在住の全校友に支部活動のPRと行事への参加呼び込みに努めています。特に、新卒者の場合は勤務先での配属事情等で住所未確定の方がおられますが、出来るだけ連絡漏れを防ぐ一策として、多くの校友が在籍する企業には「連絡キーマン」の設置をお願いして改善に取り組み中です。

現在、支部役員は各方面で活躍中の若手も含め23名で、年間のイベント計画に基づいて活動しております。H27年度のイベント計画の一部を下記します。

- (1) 第42回芝浦会ゴルフコンペ(初心者大歓迎) 5月9日
- (2) 第39回愛知支部総会(年1度の同窓会、例年多くの新人が参加されている) 7月11日
- (3) 少年少女ロボットセミナー(例年実施中、大学主催講座に補助員として協力) 8月22・23日
- (4) 第43回芝浦会ゴルフコンペ(初心者大歓迎) 11月中旬

皆様の参加を心からお待ちしております。
初めての方は、先ず年に一度の同窓会である「支部総会」に参加頂きたく思います。



静岡県同窓会支部

支部長 鈴木 和幸 土木工学科 昭和50年卒業

平成26年度第37回支部総会を7月5日(土)に開催し、来賓8名を含め42名もの会員が集まりました。

I部の支部総会は前年度の事業・会計・監査報告、役員改選、新年度の事業計画の審議をし、拍手による可決を受けました。

II部の懇親会は、神奈川の安藤支部長、愛知の平塚支部長、岐阜の平井支部長の各来賓から挨拶を頂きました。そして例年にも増してビンゴで盛り上がりました。

平成26年9月

13日(土)14日(日)

には静岡市葵区の

静岡市立高等学校

に於いて、「少年

少女ロボットセミ

ナー in 静岡」を開

催し、小中学生50

名が参加しました。

長澤純人准教授は「ロボットのおはなし」と題し講演し、ロボットが動くメカニズムや自身の研究について紹介され、リモコン操縦の6足歩行ロボットの組立て、デザインコンテストやロボット同士を土俵上で戦わせるバトル大会が行われ、静岡市長との記念撮影も行い、盛大に終了しました。



静岡市長と一緒に記念撮影(於:静岡市立高等学校)
少年少女ロボットセミナー in 静岡 2014 (H26.9.13 ~ 14)

鳥取支部

支部長 富本 哲郎 電気工学科 昭和40年卒業

平成18年に鳥取支部を創設してから10年を迎えることになりました。その間、鳥取支部活動は、①支部総会が中心の活動で、3地区持ち回り開催し、会員の参加・懇親を推進してきました。②平成20年から「しばうら通信とっとり」を発行し、大学・校友会・支部活動の情報を共有する取組をしています。③H21年に「第1回中国ブロック親睦会 in 皆生」を開催、各支部持ち回りで中国地区校友会会員の交流の輪を広げる取組を実施しています。

平成26年度に分会設置が可能となり、東部・西部は、定期総会と分会を交互に隔年実施、中部は新年会を毎年実施することで、参加者が増えました[15名前後→23人(延43人)]。

現在、鳥取支部創立10周年を記念して、新規事業を企画・実施しています。①地域貢献事業として、「少年少女ロボットセミナー」を大学主催、支部共催で開催することになり、現在、学校関係や企業などに支援依頼で奔走しています。②キャリア支援事業として、「新卒者の地域就職支援」に取組んでいます。事例：H26年に新卒者の就職相談があり、会員の協力により、就職が決定した。また、同窓生に対して、同窓会だからできる相互の就業相談・就業支援を推進しています。



山口支部

支部長 河口 英明 土木工学科 昭和 45 年卒業

最近の活動の内容：校友会山口支部は、現在、幕末の長州を舞台にした NHK 大河ドラマの「花燃ゆ」が放送されている山口県にあります。支部設立は、平成 5 年（1993 年）7 月で支部会員約 70 名です。毎年 10 月下旬から 11 月上旬頃、支部総会・懇親会・親睦ゴルフを開催し会員相互の親睦を図っています。総会時に校友会本部、大学の来賓の方から母校芝浦工業大学の近況を聞くたびに、会員一同、日頃の忙しさを忘れ学生時代だったころを思い出しています。仲間たちのつながりを大切に、会員一同、微力ながら母校芝浦工業大学を応援してまいります。

山口県にお住まいの卒業生の皆様、ご入会をよろしくお願ひします。



平成 26 年度山口支部総会

大分支部

支部長 河野 元勝 土木工学科 昭和 45 年卒業

大分支部では毎年 9 月下旬の土曜日に支部総会を開催して、会員相互の親睦を図っています。平成 26 年度は昨年 9 月 27 日（土）に本校より三浦昌生教授（大分市出身）、校友会本部より鈴見健夫校友会会長が初めて大分支部にご来賓出席いただき、会員一同大変感謝しています。さらに鹿児島支部より濱田英俊支部長、福岡支部より前田博親副支部長のご出席もいただき、支部会員出席者は 31 名と前年より 3 割り増しの盛会で、楽しく懇談しました。

また、26 年度は当支部の松岡相談役が功労者表彰を受けられ、これまでの校友会活動のご労苦をみなまでお祝ひしました。

懇親会に先立ち、新しい試みとして、異業種の方のお話を聞く機会を設けようと考え、大分マリンパレス水族館「うみたまご」の星野和夫先生による「大分に生息する魚介類について」のご講演をいただき、大変好評でした。

当支部のそのほかの活動では、秋に愛好者によるゴルフコンペを開催し、楽しく珍プレーを披露しました。また、1 月には少人数ではありますが、ホームカミングデーとして大宮校舎などを訪問し、旧交を温めました。

大分支部としましては、今後も新規会員の発掘と会員の若返りにチャレンジしてまいりますので、本部のご指導とみなさまとの情報交換をよろしくお願ひします。



愛媛支部

支部長 高木 二郎 建築学科 昭和 47 年卒業

愛媛支部は 2000 年 4 月に設立、総会を開催。

その後、会員数が減り、一時は 10 名以下の状況にまで衰退しました。校友会本部の御指導、残された支部会員の努力により、昨年春の支部総会では、本部役員後援会、他県支部会員の参加を得て 32 名の参加となりました。

四国四県の各支部総会の特徴は相互参加と、ゴルフ親善でアットホームな交流が催されることです。又、昨年は、念願の支部旗を授与され当支部会員は大変な喜びようで、今春の総会には初披露できる予定です。

愛媛支部は道後温泉「坊ちゃん」「坂の上の雲」等でお有名な松山市に事務局を設置し、若手会員を中心に、卒業生の皆様に校友会の活動を情報発信し、一人でも多くの会員増加に努めています。春の支部総会、夏の湯あがりビアパーティ、冬の温泉忘年会といずれも、地の利を生かし、道後温泉のホテルで開催しています。

昨年は、母校が、アジアの工科大学でトップ 10 入りを狙い海外の大学や企業と連携し、海外留学を義務付け、語学科目を増やす構想が評価され、文科省から「スーパーグローバル大学」に選ばれた事を、卒業生として誇りとし、期待しています。

最後になりましたが「校友会だより」を読まれた方で、退職された O B また、愛媛県に U ターンされた方、ぜひ松山での交流会に参加していただきましたら幸いです（連絡先は事務局、一色、高木）

TEL. 080-3166-1280 (一色)
080-7006-8463 (高木)

E-mail t.issiki@daiwaiox.jp



福岡支部

支部長 角 敬之 工業化学科 昭和 45 年卒業

福岡支部は、平成 18 年に再発足して以来、今年で 10 年目を迎えますが、私はそれからの 3 代目として、昨年就任しました。

当支部では、毎年 6～7 月に定時総会を開催し、10 月には大分県の湯布院で親睦会（ゴルフ・懇親会）を行っています。また、大学主催のロボットセミナーや後援会主催の父母懇談会に対しても、毎年支部を挙げて支援しています。さらにこの時期には、九州・沖縄ブロック会議を当地で開催し、他支部との交流を図っています。今後は、更なる校友会の活性化や拡充に向けて、支部会員とともに邁進していく所存です。



熊本支部

田中 純司 工業化学科 昭和53年卒業

毎年秋に熊本ホテルキャッスルで熊本支部総会・懇親会を開催しております。また、2か月に1回程度の役員会を三角支部長を中心に10名程度で行い、総会の準備や懇親の場としています。平成26年度は9月10日(水)に開催し、30名を超える出席者を迎え盛大に行い支部旗も今年初めて掲げることができました。2次会・3次会も半数近くの15名と遠来の方々とも懇親を深めることができました。

平成27年度も同じところで9月10日(木)の開催予定です。熊本では東都リーグの各校同窓会が合同で「東都リーグ大同窓会」として、昨年は14校・約200名以上の参加で開催され、今年度は19回目を迎えることとなりました。平成27年度は5月9日(土)開催で、我が芝工大は幹事校になっており、小口泰平名誉学長を講演者にお迎えする予定です。



鹿児島支部

支部長 濱田 英俊 電気工学科 昭和43年卒業

芝浦工業大学校友会鹿児島支部(芝鹿会)は会員数は約40名で、総会等に出席者は約20名です。

若い方の参加が少なく、増員に苦慮しているところです。

活動としては、総会、忘年会、ゴルフコンペ等をして親睦をはかっているところです。

平成26年度は7月上旬に芝浦工業大学建築学科の名誉教授である相田武文教授をお招きして、講演会を開催いたしました。会員の協力により鹿児島大学の大学院である教授として取り入れていただき、会場も鹿児島大学の稲盛会館をお借りし、時間も大幅に延長し、好評のうちに終了いたしました。今後もこのような企画で、大学と校友会との関係を構築していこうと思っております。

支部総会は、全国支部長会議及び全国総会の日より1カ月以内に行うというルールを設け、大体毎年7月の第1金曜日に開催し、大学及び校友会本部、それに九州管内の支部長様もお招きし、開催しております。

全国総会には必ず毎年1名は参加し、その報告を支部総会及び忘年会等で紹介し、大学の現状や校友会の活動状況を支部会員へ周知しております。最近では箱根駅伝が一番の話題になり、盛り上がっております。

今後共、大学、校友会本部との連携を図り、ご指導いただきながら、少しでも母学の発展のお役にたてる様、努力していきたいと思っております。



佐賀支部

支部長 山田 清人 通信工学科 昭和48年卒業

佐賀支部総会は平成26年10月25日、佐賀市の「ホテルグランデはがくれ」で開催。来賓として大学から野口経営企画部長、秋元建築工学科教授、校友会からは島中副会長、福岡支部から角支部長、中村幹事、中村相談役をお迎えしました。

支部総会での講演会は会員対象に限定していましたが、社会貢献の一環で新しい試みとして、一般の人への聴講枠を広げました。講師は本校の建築工学科秋元教授で「改正省エネルギー基準と芝浦工大のゼロエネ住宅」というテーマでお話をいただきました。在校生の保護者、建設関連業者、地元の大學生の参加を得て、結果約40名が最先端の情報に耳を傾け、多少なりともお役に立てたと思います。

講演会広報については地元の「佐賀建設新聞」を活用。開催予告と講演後の記事を掲載して頂き、新たなOBの発掘にも繋がりました。

地元の企業への内定者、学部1年生の学生の保護者さん達を交えての懇親会では熱心に大学の様子を聞かれ、大学、校友会、保護者が一体となって大いに盛り上がりました。保護者を含めた交流会は今後も継続していきたいと思っております。

また、100歳を迎えられた初代支部長の城島先輩(S09年土木卒)は今年も元気に総会に参加頂きました。



沖縄支部

支部長 藤元 節男 建築学科 昭和45年卒業

沖縄支部は、国内(シンガポール、台湾支部を除き)の最南端に位置し、会員70名弱の小さな支部ですが、早くは戦前から今日まで、この地より継続的に卒業生を輩出しております。本支部は、お蔭様で本年で40周年(1975年5月創立)を迎えました。会員は皆それぞれ、県内の行政・経済産業界の各分野でその中核を担い、活躍しております。

年間定例行事は、6月の定時支部総会と12月の忘年会の年二回、親睦を図っております。本年は昨年に続き暮れも押迫った衆院解散選挙、特に今年は県知事選挙が重なり恒例の12月忘年会が1月新年会(掲載写真)にシフトいたしました。

集合写真前列中央が宮里繁顧問(第3代支部長・昭和19年機械工学卒)92歳のご高齢なるも、今なお矍鑠と、後輩の牽引・指導に当たって居られます。

県知事改選の度に、県内の政治・経済状況、特に米軍基地問題は大きく揺れますが、お蔭様で支部会員は宮里顧問を軸としての結束と連帯の絆は固く、皆、技術者として成すべきこと成さねばならぬことを、当地沖縄でしっかりと地に足をつけて実践しております。



新年会(平成27年1月)

英交会支部

支部長 浅野 昌宏 電子工学科 昭和44年卒業

英交会支部は英語部（ESS）OBで構成される支部で、昨年11月に第50期の総会を迎えました。11月15日には、50周年を記念して、会員の他に現役部員や交流のあった女子大OGも招待して120名が集い記念のレセプションを開催致しました。

また、この50年の歴史を記念して、50年間の各年度の活動を記録と写真で綴る「ESS年表」を作成しました。この年表は、まだ空白になっている学年もあり、これからも情報を追加する作業を続けて行くことで、会員の繋がりを広げ、さらに毎年新しい年度を付け加えて永続させていきたいと考えています。

英交会支部は、これからも現役学生の皆さんを支援し、交流を深める事を中心に据えて、活動を活発化させていただきますので、皆様からも、ご支援・ご協力を賜れば有難く存じます。



柔道部OB会

支部長 早川 金光 建築学科 昭和51年卒業

私共OB会は4年前に校友会の支部組織として登録されました。

私が入学した昭和47年以前の柔道部は、1学年で10人以上の先輩達が毎日稽古に励み、昭和39年から全日本理工科学生柔道優勝大会において7連覇の偉業を成し遂げております。この7連覇は未だ破られていない記録として残っております。しかし、昭和47年以降は全学年合わせても部員が10人前後となり、その厳しい状況は現在も続いております。それでも、昭和62年から同大会において3連覇を達成しました。これは学生達の努力が大きなウェイトを占めておりますが、先輩方々の支援もあったからです。現役学生も同大会の優勝を目指して、間中監督の元、稽古に励んでおります。

10年程前になりますが、OBの合計段数が1000段を突破しました。現在、8段が2名、7段が10名、以下それぞれのOBも昇段を目指し試合に出場しながら、それぞれの地で小学生～中学生の技術指導をしております。

最後になりますが、校友会発展のために我がOB会も出来る限りのご協力をさせていただきますので、今後もよろしくお願いいたします。



機械工学科同窓会支部

支部長 高木 光一 機械工学科 昭和48年卒業

機械工学科同窓会支部は、校友会の学科同窓会支部の1号として2012年に設立された新しい支部です。ただし、現在のような同窓会としての活動は、昭和47年ごろから同窓生の有志が集まり定期総会を開催するなど、活動を始めてきました。

また昭和50年代からは、会員相互の親睦を図るとともに芝浦工業大学機械工学科の良き伝統を傳承し、社会に貢献することを目的に、会員名簿の発行、同総会報の発行、総会、幹事会、在校生との懇親、講演会などを掲げ事業を行っています。

会員名簿については、個人情報保護の観点から、発行を中止していますが会報などを届けられるように名簿のメンテナンスは絶えず進めています。会報の発行は毎年1回ですが、今年は第32号を発行します。

大学および在校生の皆さんとの接点も大切にしており、新入生のオリエンテーションに協賛したり、卒業生にはささやかですが卒業記念品を贈呈しています。平成24年からは、3年生後期・機械ゼミナール1でPBL（問題解決型学習）の授業にコーチ役として参加しています。



2014年5月24日 豊洲キャンパスカフェテリアにて

錬心会支部

支部長 阿部 安行 建築学科 昭和45年卒業

今年度支部長に就任した昭和45年建築学科卒業の阿部安行と申します。

当錬心会支部は、創部53年を誇り、昭和30年代後半から40年代前半迄は、関東学連に於いて3位1回、新人戦準優勝2回、全国大会3位に輝き、また関東理工科系大会には常勝を重ねました。しかし昭和40年代半ばの学生運動の後急速に新入部員が激減、成績も見るところ無く近年までを過ごして来ました。

古くは羽賀準一先生、警視庁名誉師範佐藤博信先生、また近年は、剣道・居合道8段の警視庁名誉師範伊藤智治先生を指導者と仰ぐ当支部では、50周年を機に再興を図ろうと言う機運が高まり、また昨年は10名を超える新入生を迎え期待する処大なるものがあります。また活性化を図る活動の一環として、板橋・柏両付属中高校剣道部員を、年三回実施している現役OB合同稽古会に招待し、校友を深めております。伊藤師範及びOBの指導のもと、実力向上を図り、今後の大学進学、入部を促進して行こうとしています。今後校友会本部の更なるご支援を期待するものです。



2014年3月 現役OB合同稽古会

ソフトテニス部OB会

大木 茂 2部機械工学科 昭和50年卒業

私共ソフトテニス部OB会は昨年6月、支部として承認して頂きました。下の写真はその後、総会を開催した時の集合写真です。

総会開催の翌日は、OB選手権を開催しソフトテニスを楽しみます。これはOB会創設以来50年間続く伝統でして、優勝杯を競います。過去にOB会員より全日本選手権優勝者を3人輩出しております。

今後は校友会支部として、発展に寄与出来る活動を致したいと考えております。



ヨット部OB会支部

支部長 柴田 真利 工業化学科 昭和59年卒業

本会は会員の相互交流・ヨットの普及・ヨット部の発展に寄与することを目的に活動しております。会員数約200名、毎年8月にヨット部活動拠点である江の島にて総会を行っております。

年一度の総会にあわせて現役学生と共に合同レースを行い、OBと学生の交流を深めております。ヨットで競うことで親睦が深まるとてもいい会だと感じております。

その他OB相互の親睦を深めるゴルフコンペを年2回、全国各地域別に設置している支部を訪ねる支部会旅行を毎年行っております。

また昨年はヨット部創立50周年を迎え、去る5月に帝国ホテルにて創立50周年パーティーを盛大に執り行いました。

近年はヨット部現役の活動も活気を増し、全日本学生女子ヨット選手権大会出場、全日本470級ヨット選手権大会出場などの好成績もおさめております。



ハンドボール支部

大村 俊樹 機械工学第2学科 昭和56年卒業

2014年6月に承認されたハンドボール部OB会支部です。会員数は約110名で毎年10月の末にOB総会を開き親睦を深めています。2014年度は、2014年10月22日(水)に総会が開かれ参加者24名プラス現役学生4名(主将、マネージャー)も参加して和やかな雰囲気で行われました。写真はその時のものです。その他の活動としては、年1回の総会のほかに、現役の試合の応援や合宿での指導、合宿費の援助など、現役のチームが少しでも強くなるように支援活動をしています。

支部長	塩川 安賢 (S 36年建築工学科卒)
副支部長	池田 茂郎 (S 37年電気工学科卒)
幹事	池田 鉄哉 (S 40年電気工学科卒)
	中村 崇 (S 40年電気工学科卒)
	井出 恵尉 (S 40年工業経営学科卒)
事務局	大村 俊樹 (S 56年機械工学第Ⅱ学科卒)
	河村 登 (S 60年土木工学科卒)
会計	大岡 忠仁 (S 59年機械工学第Ⅱ学科卒)
	川合 誠 (S 60年土木工学科卒)
会計監査	大桐 誠 (S 56年土木工学科卒)
	大森 雅樹 (S 59年機械)



硬式野球部OB会支部

幹事 森本 静 工業経営学科 昭和50年卒業

硬式野球部OB会が校友会支部となって2年程が経過しました。年間の活動状況は、会報の作成・会員名簿の作成配布・年会費の徴収等々です。

支部総会は、例年11月末から12月初旬に開きます。総会終了後は現役選手を交え、選手激励会と懇親会を開催し、OBとのコミュニケーションを図ります。徴収した会費の運用は、発足した当時の理念をそのままに、会報作成費・通信費を除き殆どを現役選手達への道具(バット・ボール等々)寄贈にあてています。実は、硬式野球部OB会が発足してから今年で20年となります。現在の名簿登録者数は故人も含めると658名。実質の連絡可能会員数は379名(住所不明・連絡不能除く)。

そもそも、硬式野球部OB会が発足した経緯は当時の選手達が東都大学野球連盟への連盟費支払い・野球道具購入費等々で苦慮しており、それを少しでも何とかしてあげたい、との事で野崎充氏(昭和30年卒 当時芝浦工大事務局長 故人)、島田章二氏(昭和35年卒 初代OB会会長)、若月尊博氏(昭和39年卒 当時芝浦工科大学職員 故人)と片山祐二氏(昭和45年卒)の4名が発起人となり1995年に立ち上がりました。

今後の目標は、若いOB達にも積極的に支部総会に参加して頂き、芝浦工業大学・校友会・硬式野球部の発展に寄与すべく努めて行きたいと思っております。



芝浦技術士会支部

支部長 大原 武光 電気工学科 昭和37年卒業

2012年11月に校友会に加入しました芝浦技術士会支部です。メンバー数約240名で、会員相互の技術研鑽を図り、芝浦工業大学校友会と母校芝浦工業大学の発展に寄与することを目的に進めています。

具体的には2013～2014年と3回の「技術士CPD(継続研鑽)講座」、2013及び2014年の「技術士2次試験対策講座」(電気電子部門・機械部門・建設部門)が挙げられます。受講者の合格率はコース平均約35%で全受験者の合格率大きく上回っています。

2013及び2014年4月に技術士資格取得のために機械系1、2年生に説明会、JABEEコース選択への呼びかけを行いました。また、校友会及び大学への「技術士」に関する情報の提供を行い、ホームページでも紹介してきました。

入会以降毎年、箱根駅伝の選抜会への応援に参加し、若い学生さんが頑張っている姿に感動しました。

芝浦伝統の「実学」をベースに今後も研鑽し、校友会と母校の協力を得て社会貢献に励んでいきたいと思っています。皆様宜しくお願い致します。有難うございました。



三芝会

支部長 釜井 重一 建築学科 昭和55年卒業

2015年3月13日(金)に芝浦工業大学校友会倶楽部にて支部総会・懇親会を開催いたしました。

芝浦工業大学からは五十嵐久也理事長、野口一也経営企画部長、校友会からは、鈴見健夫会長、岩本行雄事務局長に出席して頂きました。

当会からは正会員が18名、賛助会員11名、総勢29名の参加を得て支部総会・懇親会を開催しました。

野口一也経営企画部長さまからは、芝浦工業大学が2014年9月にスーパーグローバル大学に私立の理工系大学では唯一1校選ばれたこと。そのことで大学が大変元気である事を熱意をもって教えて頂きました。鈴見校友会会長さまは校友会組織が海外でも頑張っていることを、これまた熱意をもって語られていました。大学や校友会の現在の活動状況が良くわからない私ども支部会員にとっては大変興味を持って拝聴することができ、有意義な時間を過ごせました。

その後の懇親会では、昔話に花を咲かせて和気あいあいと語り、時間が経つのが早く感じられました。会員にはそれぞれ現況を話してもらい、会員各々の親睦をはかり楽しい時を過ごせました。

遠いところでは、フィリピン、ヴェトナム、インドの現場にも校友が配属され、国内も北海道から九州沖縄と全国の現場に技術者として配属され腕を振っています。各国、各地域に配属されている会員は当然オンリーワンの社員として頑張っているのですが、職域支部の会員としてはどうしても縁が薄いものとなってしまいます。彼らの参加を応援していくにはどうしたらいいか、色々知恵を絞り『継続は力なり』を実践していきたいと思えます。学校、校友会本部、先輩各位に置かれますは、ご支援ご鞭撻を賜りますように、宜しくお願い致します。



MOT 同窓会支部

支部長 西河 洋一 大学院工学マネジメント研究科専攻 平成21年卒業

最近の活動内容：

「芝浦工業大学校友会MOT同窓会支部(MOT同窓会)」は、芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科(MOT)で得た知識を活用させ、修了後も会員相互の親睦と情報交換を行うことで技術経営者としての活動をより深めることを目的に開設されました。MOTの修了生は、2015年3月に17名が修了し、1期生からの修了生は、延べ216名となりました。

MOT連絡会(2015年1月10日)の開催

平田貞代先生(MOT連絡会発起人)のお声掛けで、2015年1月10日(土)に芝浦工大芝浦校舎(田町)にて、「MOT連絡会」を開催しました。副支部長の小平和一郎が司会を務めました。平田先生から会合の目的が話され、(1)MOT教授陣、在校生との今後の連絡体制について、(2)メールおよび住所情報の交流、公開について、(3)今後の在学生との交流および協力体制についてなど、意見交換が行われました。終了後、校友サロンにて、懇親会を行いました。

(連絡窓口) 副支部長 小平和一郎(1期生)

Email: kodaira@eufd.org;



MOT 同窓会支部総会(2015.4.12 芝浦校キャンパス)

住芝会

支部長 南山 佳徳 電気工学科 昭和62年卒業

住芝会は平成14年11月に発足し、今年で13年目となる職域支部です。

住芝会の活動の一つとして、年に一度支部総会及び懇親会を行なっております。

昨年は9月3日(水)に支部総会及び懇親会を無事開催することができました。

学校側から早乙女常務理事・本間教授両氏、校友会から林田副会長・野末様にご出席いただき、大学の現状や校友会の活動の報告等のもとも有意義なお話を聞かせていただきました。

懇親会の最後には、支部旗をバックに全員で校歌を合唱し、盛会裡に会を閉じることができました。

今年も9月に支部総会及び懇親会を予定しており、更なる会員相互の交流と親睦を図る予定です。

私たち住芝会は職域支部ということもあり、年齢層が比較的若い支部であります。ですので、今後も皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、積極的且つ継続的に校友会活動に参加させていただく所存であります。

最後に、母校芝浦工業大学の益々のご発展と、校友会皆様のご健勝をお祈り申し上げます。



校友会 支部及び支部長一覧

支部名	支 部 長	
	氏 名	卒年・学科
北海道	山口 富雄	40・建築学科
青森	下山 勝弘	41・土木工学科
岩手	遠藤 龍一	50・建築工学科
秋田	渡邊 淳悦	51・建築学科
宮城	鎌田 正夫	46・建築工学科
山形	川越 進	46・土木工学科
福島	濱田 英晴	45・機械工学科
栃木	宇塚 典夫	37・土木工学科
茨城	村田 省吾	43・建築学科
群馬	半田 公作	52・建築工学科
埼玉	泉澤 定雄	46・建築学科
千葉県	井上 正教	38・電気工学科
東京都	大丸 征史	39・電子工学科
多摩	谷川 潮	45・機械工学第二学科
神奈川	安藤 脩二	35・電気工学科
新潟	臼井 静男	48・土木工学科
長野	北村 武彦	45・建築学科
山梨	竹村 孝	41・電気工学科
富山	川崎 政善	45・建築学科
石川	小杉 俊明	43・建築学科
福井	西浦 正三	45・土木工学科
岐阜	平井 良樹	57・工業経営学科
静岡県同窓会	鈴木 和幸	50・土木工学科
愛知	平塚 秀雄	40・電気工学科
三重	谷水 佐久也	50・電気工学科
関西	水口 譲	48・建築学科
鳥取	富本 哲郎	40・電気工学科
岡山	沖本 光昭	45・通信工学科
島根	浅野 正教	45・建築学科
広島	立木 貢	43・土木工学科
山口	河口 英明	45・土木工学科
香川	乾 篤之	45・通信工学科
徳島	宮本 博	47・建築学科
愛媛	高木 二郎	47・建築学科
高知	吉本 哲生	50・土木工学科
大分	河野 元勝	45・土木工学科
福岡	角 敬之	45・工業化学科
宮崎	尾形 彰史	52・建築学科
熊本	三角 保之	38・電気工学科
佐賀	山田 清人	48・通信工学科
長崎	藤本 博文	61・工業化学科
鹿児島	濱田 英俊	43・電気工学科
沖縄	藤元 節男	45・建築学科

支部名	支 部 長	
	氏 名	卒年・学科
韓国	金 範得	19・土木工学科
台湾	江 文雄	63・機械工学第二学科
シンガポール	橋本 雅夫	45・建築学科
MOT 同窓会	西河 洋一	H21・工学マネジメント専攻
機械工学科同窓会	高木 光一	48・機械工学科
よろく会	小寺 貴士	46・通信工学科
緑会	井家 良明	35・建築学科
英交会	浅野 昌宏	44・電子工学科
黒潮会	加藤 善次郎	55・機械工学科
ニッポンダフォーラムOB会	梅元 千代志	41・電気工学科
錬心会	阿部 安行	45・建築学科
柔道部 OB会	早川 金光	51・建築学科
ギター部 OB	渋谷 雅信	53・建築学科
芝浦技術士会	大原 武光	37・電気工学科
硬式野球部 OB会	前野 和博	46・工業経営学科
TBT(島人間)OB・OG 同好会	伊藤 嘉将	H10・機械工学第二学科
ハンドボール部 OB会	塩川 安賢	36・建築学科
ソフトテニス部 OB会	早川 昇	44・建築学科
ヨット部 OB会	柴田 真利	59・工業化学科
スキー部 OB会	山田 敏明	44・土木工学科
安藤建設芝浦会	不 在	
大林グループ芝浦会	不 在	
奥村組芝浦会	吉本 竜也	H3・建築学科
神奈川県庁	鈴木 祥一	56・土木工学科
川崎市役所	藤倉 茂起	56・土木工学科
関電工芝浦会	鈴木 雅久	56・建築工学科
京三	片山 雅則	56・電気工学科
熊谷組芝浦会	宮澤 守	H3・建築学科
五洋建設芝浦会	柳沢 純一	62・建築工学科
三芝会	釜井 重一	55・建築学科
鹿芝会	増田 孝弘	63・建築工学科
清水建設芝浦会	中村 行男	56・建築学科
住芝会	南山 佳徳	62・電気工学科
大成芝浦会	種元 賢弘	H2・建築学科
ダイダン	西内 義充	47・機械工学科
大日本土木	長谷川 勝己	56・土木工学科
高砂熱学工業	竹内 祥貴	55・建築工学科
竹中芝浦会	忍 裕司	55・建築学科
戸田建設芝浦会	古越 仁	55・電気工学科
飛鳥建設芝浦会	不 在	
日比谷芝浦会	岡本 正仁	45・建築学科
フジタ芝浦会	佐々木 茂人	H3・土木工学科
芝友会	中村 信夫	19・機械工学科

校友会 常任幹事会 名簿 (役員を除く) 平成27年6月13日 現在



常任幹事
岡本 嘉行
建築学科 昭和34年卒



常任幹事・特別委員
長沢 栄太郎
建築学科 昭和46年卒



常任幹事・特別委員
浅見 勝
建築学科 昭和51年卒



常任幹事
安藤 脩二
電気工学科 昭和35年卒



常任幹事・組織委員
内田 武男
土木工学科 昭和46年卒



常任幹事・例規委員
野上 宏明
金属工学科 昭和51年卒



常任幹事
中村 宏
土木工学科 昭和37年卒



常任幹事・特別委員
井出 恵尉
工業経営学科 昭和47年卒



常任幹事
小貫 諭
工業化学専攻 昭和52年卒



常任幹事・組織委員
大丸 征史
電子工学科 昭和39年卒



常任幹事・財務委員
森川 理
電子工学科 昭和47年卒



常任幹事・例規委員
鯨井 武
通信工学科 昭和54年卒



常任幹事・事務局長
岩本 行雄
工業化学科 昭和44年卒



常任幹事・例規委員
赤井 和憲
土木工学科 昭和47年卒



常任幹事・組織委員
犬塚 祥二
建築工学科 昭和54年卒



常任幹事・組織委員
清水 修司
建築学科 昭和44年卒



常任幹事・組織委員
長井 義明
建築学科 昭和47年卒



常任幹事・事業委員
木名瀬 英彰
土木工学科 昭和54年卒



常任幹事・総務・広報委員
小平 和一郎
電子工学科 昭和45年卒



常任幹事
土屋 賢一
建築工学科 昭和47年卒



常任幹事・例規委員
安齋 正博
機械工学第二学科 昭和55年卒



常任幹事・組織委員
小野瀬 等
通信工学科 昭和45年卒



常任幹事・事業委員
野口 博文
土木工学科 昭和47年卒



常任幹事・財務委員
加藤 善次郎
機械工学科 昭和55年卒



常任幹事・事業委員
野田 浩
通信工学科 昭和45年卒



常任幹事・事業委員
高木 光一
機械工学科 昭和48年卒



常任幹事会副議長・事業委員
釜井 重一
建築学科 昭和55年卒



常任幹事・特別委員・
在校生就職支援委員
角野 和明
建築学科 昭和46年卒



常任幹事・事業委員
斎藤 教男
建築学科 昭和49年卒



常任幹事・総務・広報委員
元井 彰
土木工学科 昭和55年卒



常任幹事・事業委員
植松 恵一
通信工学科 昭和46年卒



常任幹事・事業委員
森本 静
工業経営学科 昭和50年卒



常任幹事・総務・広報委員
中根 眞行
工業経営学科 昭和55年卒



常任幹事
川越 進
土木工学科 昭和46年



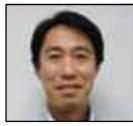
常任幹事・在校生就職支援委員
小川 達生
通信工学科 昭和51年卒



常任幹事会副議長・財務委員
文倉 辰夫
電気工学科 昭和55年卒



常任幹事・組織委員
中村 行男
建築学科 昭和 56 年卒



常任幹事・財務委員
荻谷 義治
金属工学科 平成 2 年卒



常任幹事・特別委員
山西 陽子
機械工学科 平成 9 年卒



常任幹事・事業委員
青木 豊治
機械工学科 昭和 57 年卒



常任幹事・組織委員
吉本 竜也
建築学科 平成 3 年卒



常任幹事・在校生就職支援委員
伊代田 岳史
土木工学科 平成 9 年卒



常任幹事・事業委員
長谷川 健嗣
機械工学科 昭和 57 年卒



常任幹事・総務・広報委員
安藤 吉伸
二部電気工学科 平成 4 年卒



常任幹事・総務・広報委員
中川 雅史
土木工学科 平成 12 年卒



常任幹事
平井 良樹
工業経営学科 昭和 57 年卒



常任幹事・例規委員
齋藤 敦史
通信工学科 平成 4 年卒



常任幹事・総務・広報委員
柏倉 隆行
機械制御システム学科
平成 12 年卒



常任幹事・特別委員
佐々木 克則
電気工学科 昭和 60 年卒



常任幹事・例規委員
安田 俊司
機械工学第二学科 平成 4 年卒



常任幹事・財務委員
野元 明俊
二部電気工学科 平成 12 年卒



常任幹事・組織委員
渡辺 通宏
二部機械工学科 昭和 60 年卒



常任幹事・例規委員
山口 正樹
電子工学科 平成 5 年卒



常任幹事・総務・広報委員
滝下 勇
二部電気設備学科
平成 16 年卒



常任幹事・総務・広報委員
藤田 利行
電気工学科 昭和 62 年卒



常任幹事・特別委員
新井 剛
金属工学科 平成 7 年卒



常任幹事・事業委員
西河 洋一
工学マネジメント専攻
平成 21 年卒



常任幹事・特別委員
福田 栄寿
機械工学第二学科 平成 1 年卒



常任幹事・事業委員
市川 拓
機械工学第二学科 平成 8 年卒



常任幹事
福井 幸博
地域環境システム専攻
平成 23 年卒

校友会 相談役・顧問 名簿

平成 27 年 6 月 13 日 現在



顧問・組織委員
滝沢 厚征
建築学科 昭和 39 年卒



顧問・組織委員
岡本 泰明
機械工学科 昭和 41 年卒



顧問・組織委員
雲然 國幸
機械工学第二学科 昭和 41 年卒



顧問・組織委員
田口 継道
建築学科 昭和 39 年卒



顧問・総務・広報委員
小川 誠
機械工学第二学科 昭和 41 年卒



相談役・組織委員
郡司 卓臣
機械工学科 昭和 43 年卒



顧問・例規委員
今村 均
機械工学科 昭和 40 年卒



相談役・事業委員
金井 昭三
機械工学第二学科 昭和 41 年卒



顧問・事業委員
吉野 巖
機械工学科 昭和 43 年卒

学校法人芝浦工業大学 卒業生評議員のご紹介

平成 26 年 11 月 10 日の大学理事会で校友会が推薦した評議員候補者は、今任期（平成 26 年 11 月 12 日より平成 29 年 11 月 11 日）の評議員として正式に認定されました。



大丸 征史
昭和 39 年
電子工学科卒業

経 歴

校友会歴 平成 19 年 東京総支部設立 副支部長 支部長代行
平成 20 年 常任幹事 財務委員会 委員
平成 22 年 東京総支部 支部長
平成 23 年 常任幹事 監査役
平成 25 年 東京総支部 支部長
平成 26 年 常任幹事 監査役退任

経 歴 平成 12 年 沖ウインテック（株） 代表取締役専務
平成 16 年 芝浦沖電設（株） 取締役社長
平成 17 年 沖ウインテック（株） 常務理事
平成 19 年 赤城工業（株） 取締役
平成 25 年 赤城工業（株） 退社



鈴見 健夫
昭和 45 年
建築学科卒業

経 歴

校友会歴 平成 20 年 学校法人芝浦工業大学評議員就任
平成 21 年 学校法人芝浦工業大学理事就任

経 歴 昭和 52 年 旭硝子株式会社 入社
平成 2 年 旭硝子ビルウオール(現旭ビルウオール)株式会社 取締役
平成 14 年 同社 代表取締役社長
平成 19 年 旭ファイバーグラス株式会社 取締役兼任
平成 26 年 同社 相談役就任



谷川 潮
昭和 45 年
機械工学第二学科卒業

経 歴

校友会歴 平成 23 年 常任幹事・監査役就任
平成 25 年 東京総支部副支部長就任
平成 25 年 多摩支部長就任
平成 26 年 副会長就任

経 歴 昭和 45 年 東京いすゞ自動車株式会社 入社
平成 17 年 東京いすゞ自動車 専務取締役就任
平成 21 年 いすゞ自動車首都圏 理事就任
平成 23 年 学校法人 小山庄園 評議員就任



橋本 雅夫
昭和 45 年
建築学科卒業

経 歴

校友会歴 平成 26 年 シンガポール支部設立 支部長就任

経 歴 昭和 45 年 鹿島建設株式会社入社 技術研究所配属
平成 5 年 インドネシア関連会社の STS 社 社長として出向
平成 12 年 シンガポール関連会社の KOA 社 副社長として出向中
平成 22 年 鹿島建設株式会社 執行役員 就任



川越 進
昭和46年
土木工学科卒業

経 歴

経 歴 昭和46年 山形県庁 土木部
平成21年 山形県庁 退職
平成21年 NPO山形県サッカー協会 専務理事
平成22年 (社)山形県スポーツ振興21世紀協会 理事長
※プロサッカー「モンテディオ山形」の運営法人
平成22年 NPO山形県サッカー協会 副会長



土屋 賢一
昭和47年
建築工学科卒業

経 歴

校友会歴 平成9年 関西支部 幹事就任
平成14年 副支部長就任
平成18年 支部長代行就任
平成18年 支部長就任
平成22年 支部長退任
同年 顧問 就任
平成23年 学校法人芝浦工業大学 卒業生評議員 就任

経 歴 昭和47年 (株)竹中工務店 入社
平成12年 (株)竹中工務店 大阪本店 部長職
平成19年 (株)竹中工務店 役員補佐
平成21年 (株)竹中工務店 参与
平成23年 (株)竹中工務店 専門役



平井 良樹
昭和57年
工業経営学科卒業

経 歴

校友会歴 平成16年 岐阜県支部長 就任

経 歴 昭和57年 京都 西陣 魚新 入店
昭和60年 同店 退店
昭和60年 株式会社ひら井 入社
昭和63年 同社 専務取締役 就任
平成11年 社団法人 岐阜青年会議所 理事長 就任
平成17年 株式会社ひら井 代表取締役社長 就任
平成23年 全国芽生会連合会 理事長 就任



福井 幸博
平成23年
大学院理工学研究科
博士課程地域環境システム
専攻修了

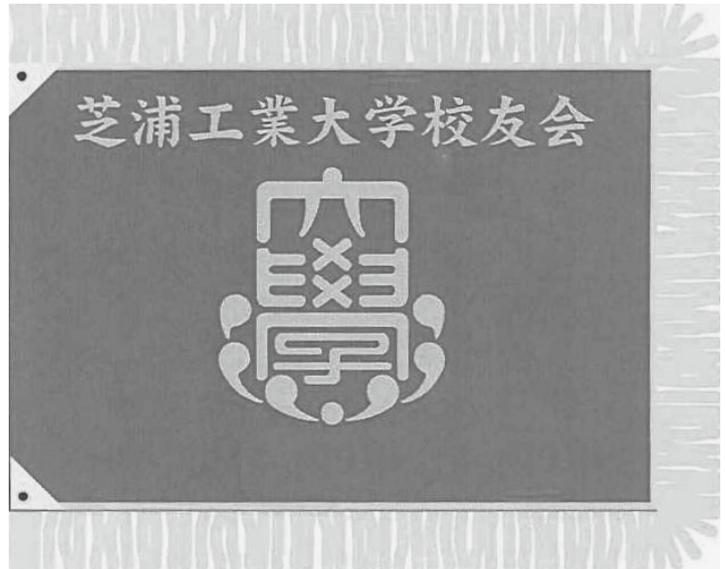
経 歴

経 歴 昭和55年 富山県職員に採用
昭和55年 同上 退職
昭和55年 菱越電機株式会社 入社
平成9年 同上 退職
平成9年 三菱電機株式会社 入社
平成13年 同北陸支社電力課長
平成16年 同本社営業本部法人営業第3課長
平成20年 同北陸支社事業推進部長
平成24年 三菱電機(株)を早期退職
平成25年 芝浦工業大学大学院 非常勤講師
平成25年 文部科学省直轄事業
北陸ライフサイエンスクラスタープロジェクト
ディレクターに就任

“支部旗” 全国にひるがえる

授与支部一覧		
北海道支部	山梨支部	高知支部
青森支部	富山支部	大分支部
岩手支部	石川支部	福岡支部
秋田支部	福井支部	宮崎支部
宮城支部	岐阜支部	熊本支部
山形支部	静岡県同窓会支部	佐賀支部
福島支部	愛知支部	長崎支部
栃木支部	三重支部	鹿児島支部
茨城支部	関西支部	沖縄支部
群馬支部	鳥取支部	清水建設芝浦会
埼玉支部	島根支部	英交会
千葉県支部	広島支部	黒潮会
東京総支部	岡山支部	三芝会
多摩支部	山口支部	鹿芝会
神奈川支部	香川支部	住芝会
新潟支部	徳島支部	機械工学科同窓会
長野支部	愛媛支部	錬心会

この支部旗のもとに校友が集い、支部活動の活性化と更なる拡大が期待されています。今、全国総会に於いて50、51旗目となる支部旗が機械工学科同窓会支部・錬心会支部に手渡されました。



校友会「会員名簿」および2015年「新卒業生追補版」発刊について

校友会では、会員同士の連絡を取り易くすることが会員各位のお仕事や同好活動に役立ち、いずれ会員組織の活性化に繋がるとの考えのもとに、2006年に会員名簿を制作し販売してまいりました。その後この名簿を補完する形で毎年新卒者の名簿を制作しており、2015年3月新卒業生の方についても追補版を発刊いたします。

《ご利用について》

2006年に発刊した名簿は従来の卒年、学科単位の名簿ではなく、各県別、郵便番号順に編集したものです。

このため、各市町村にどのような会員（卒業生）がおられるか、また、お勤めの会社にどのような先輩、後輩がおられるか把握でき、会員同士の繋がりと、利用し易さを目指し編集したものです。

なお追補版についてはいずれも編集時間の関係から学科別掲載とさせていただきます。

《名簿への通し番号の付与について》

名簿の販売については個人情報保護法の精神を尊重するため一つの方法として全ての名簿に通し番号を付し、販売先が確認できるようにしました。是非、個人の利用のみに留めて頂きたいと考えております。

《名簿の販売について》

名簿の販売は1冊5,000円です。追補版のみご希望の方には1冊500円で販売しております。名簿購入ご希望の方は「名簿希望」と記入し、氏名、卒年、学科および送付先を明記し左記口座にご送金ください。ご入金確認後、発送いたします。振込用紙をご希望の方は事務局までご連絡ください。

また購入に関するご質問は左記校友会事務局までお問い合わせください。

《追補版の刊行時期》

追補版 2015年新卒者の転居先が決定した頃に名簿を

刊行しますので、2015年版は10月～11月の発刊になりますのでご注意ください。それ以前の追補版はいつでもお買い求めいただけます。

●名簿代金振込先

郵便局 加入者名：芝浦工業大学校友会
口座番号：00160-5-9575

●名簿の購入に関するお問合せ

【芝浦工業大学校友会事務局】

〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目9番14号 芝浦工業大学内
TEL：03-5445-9634 FAX：03-5445-9635

E-mail：sitfriends@shibaura-koyu.jp

●住所変更等に関するお問合せ

【学校法人芝浦工業大学 校友・後援会連携課】

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5

TEL 03-5859-7030 FAX 03-5859-7071

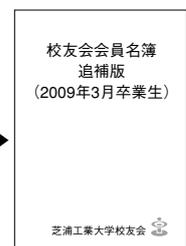
E-mail：koyu@ow.shibaura-it.ac.jp

E-mail：somu@ow.shibaura-it.ac.jp



◀5,000円
(送料込)

▶追補版
500円
(送料込)



印刷中

「校友倶楽部」のご案内

芝浦卒業生が、自由に集い憩える校友倶楽部が芝浦校舎7階にあります。この大切な空間を全芝浦関係者の皆様に有益で利用価値のある空間となるよう、校友会一同、邁進していく所存でございます。皆様のご利用を心よりお待ちしております。



【ホワイトラウンジ】



【ブラックラウンジ】

設備

お食事・お飲物はケータリングを行っておりますので、17時以降のご利用はご予約をお願い致します。

ご利用時間

平日：月曜日～金曜日 11:00～21:00

土曜日：ご予約の上ご利用ください。

日・祝日：定休 *営業時間につきましては、変更となる場合があります。

*飲酒につきましては、午後5時以降とさせていただきます。

お問い合わせ

芝浦工業大学校友倶楽部

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内7階

TEL: 03-5445-9646

FAX: 03-5445-9635

芝浦工業大学校友倶楽部 入会申込書

							登録No.	
フリガナ 名前	〒 - -		卒業年 卒業学科	年卒	学部	学科卒		
住所	〒 - -			自宅 連絡先	-	-		
携帯	- -		FAX	-		*FAXでの対応を希望されるお客様はご記入をお願いします		
E-mail	PC	@						
アドレス	携帯	@						
生年月日	明治・大正・昭和・平成	年	月	日	年齢	歳		
会費	入会金：¥10,000	《支払い方法》	<input type="checkbox"/> 現金払い		年	月	日	受領
	年会費：¥3,000		<input type="checkbox"/> 振込み 銀行・郵便局		年	月	日	受領
備考欄	*75歳以上の方は年会費は無料です。							
当校友倶楽部への必要などの他、現役当時の部活、所属団体名などご記入ください。								

《個人情報の取り扱いについて》 芝浦工業大学校友会ではご提供頂いた個人情報を、正当な理由があるときを除き第三者には提供いたしません。また、特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱い(目内外利用)はいたしません。

卒業生の皆様へ

資格取得講座の御案内

◎申込方法

- 校友会ホームページ上から必要事項を記入しお申込下さい。
校友会ホームページ <http://www.shibaura-koyu.jp/>
- 校友会にお申込後4日程度で日建学院から案内書が発送されます。
- 代金振り込み後、1週間でパスワードが通知されます。

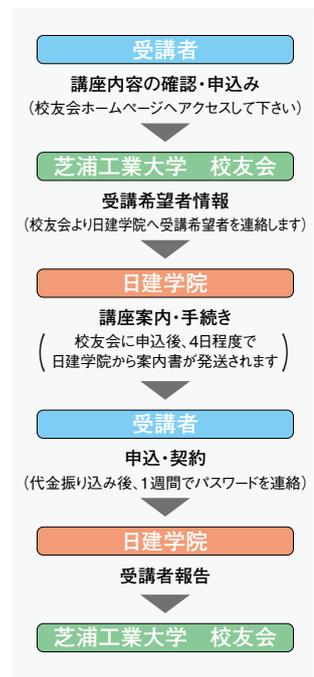


◎講座内容

- 講座内容は日建学院ホームページでも確認できます。
- 日建学院ホームページ <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>



◎案内から申込まで



◎提供する講座

	一般学費(税別)	校友会特別学費(税別)
● 1級建築士学科(Web)講座(個別コース)	300,000円 ⇒	150,000円(27年受験)
● 2級建築士学科(Web)講座(個別コース)	300,000円 ⇒	142,000円(27年受験)
● 宅地建物取引士(Web)講座(個別コース)	100,000円 ⇒	80,000円(27年受験)
● 1級建築士学科 本科講座(通学コース)	500,000円 ⇒	428,000円(27年受験)
● 1級建築施工学科 講座(通学コース)	250,000円 ⇒	209,000円(27年受験)

ご不明な点は校友会事務局にお問い合わせください

芝浦工業大学 校友会
事務局

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内
TEL: (03)5445-9634 FAX: (03)5445-9635
E-mail: sitfriends@shibaura-koyu.jp

技術士試験対策講座

本講座は、技術士試験受験者の合格サポートを目的としています。
特別料金で講師陣が合格を全力サポートしています。

一次試験対策講座

一次試験対策講座では大学で学んだ講義を振り返り、過去の出題傾向の分析をもとに、基礎・適性科目、電気電子部門、建設部門、で各分野の基礎について解説します。広い出題範囲の中から取捨選択することは困難であることから、ポイント整理に役立ちます。2016年度から機械部門も開講予定です。



二次試験対策講座

二次試験対策では受験申込書・業務経歴票(技術的体験)の書き方、答案作成、口頭試験のポイントに重点を置いています。電気電子部門、機械部門、建設部門、で受験される方をサポートします。2015年度から機械部門では講義収録DVDを郵送する通信講座も開始しました。二次試験対策講座受験生の合格率は約37%(芝浦技術士会調査)です。



各講座の詳細は、リンク先のウェブページよりご確認ください。

<http://extension-programs.shibaura-it.ac.jp/otc>

芝浦 公開講座

検索

【お問い合わせ先】

芝浦工業大学 校友・後援会連携課
(内 芝浦技術士会事務局)
〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
Tel. 03-5859-7030 / Fax. 03-5859-7031
E-mail: koyu@ow.shibaura-it.ac.jp

課外活動紹介

～後輩たちの活躍～

男子バスケットボール部

部員数: 21人
筆者: 窪田 溪之
学科: 電子情報システム学科
学年: 2年

活動内容

私たち男子バスケットボール部は、毎週3回のチーム練習と1回の個人練習を行い、日々試合に向けて活動しています。チーム練習では基礎的なシュート練習から5対5のミニゲームまでをキャプテンを中心に全員が声掛けをし、チーム一丸となって練習を盛り上げて行っています。

普段の練習のほか、他校との練習試合にも積極的に取り組み、夏休み期間中には合宿を行いチームのパワーアップと、団結力の向上を図っています。

昨年度は、関東大学バスケットボール連盟リーグの5部リーグで50を超えるチームの中で第3位になり4部昇格を果たし、関東大学理工系リーグでも1部昇格を果たしました。

今年度は今までよりもワンランク上での戦いになるので、1回1回の練習を大切にして精いっぱい活動に取り組んでいきます。

受賞歴・成績

関東大学バスケットボール連盟リーグ
5部大宮Bブロック : 1位
5部入れ替えチーム決定トーナメント : 3位

理工系リーグ戦大会2部 : 準優勝
理工系秋季トーナメント大会 : 3位

今後の活動予定

関東大学バスケットボール選手権大会(4/25～)
関東大学バスケットボール新人戦(5/30～)



硬式野球部

部員数:44名
筆者:谷村保幸
学科:環境システム学科
学年:3年



活動内容

春・秋のリーグ戦とそれらに向けた練習・オープン戦が主な活動内容です。現在、3部リーグに所属しており、森本監督の指導の下、3部優勝・2部昇格を目標に練習に取り組んでいます。平日は、授業や実験でまとまった練習時間がとりづらい中、各人が時間をつくり練習に取り組み、土曜・日曜には全体で練習をしています。夏期、冬季と二回の合宿も行っております。

今年創部86年を迎える伝統ある部です。大学野球界でもトップレベルの実力・激戦リーグである東都大学野球リーグ(4部21大学で構成)に所属し、多くのプロ選手や優秀な指導者を輩出してきた歴史があります。現在は、「今年こそ2部へ」という目標の下、練習しています。大学4年間を通して、学業やアルバイト等と両立させながら、仲間と同じ目標に向かって真剣に野球をする生活は本当に充実しています。

受賞歴・成績

1部優勝3回
2部優勝9回
2014年3部リーグ春期リーグ戦 優勝(36年ぶり)
秋期リーグ戦 準優勝

今後の活動予定

4、5月 春季リーグ戦(大学グラウンド)
6月 入れ替え戦(明治神宮球場)
8月 夏季強化合宿、夏季オープン戦
9、10月 秋季リーグ戦(大学グラウンド)
11月 入れ替え戦(明治神宮球場)
2月 春季練習・学内強化合宿
3月 春季練習、春季オープン戦



陸上競技部(短距離ブロック、駅伝ブロック)

部員数:45名
筆者:主将・梶原遥
学科:材料工学科
学年:4年



活動内容

私達、陸上競技部は総勢45名、『自覚と責任』を部の理念として石崎顧問、味澤監督、灰塚コーチの指導のもと日々練習に励んでおります。駅伝ブロックは箱根駅伝に出たいという強い志を持ち、挑戦が始まってから今年で4年目になりました。学部、学科はみな違うことから練習時間を合わせる事が難しく、更に勉強優先という状況の中ではありますが、お互いに時間割を合わせ、工夫をしながら月～金曜日の練習、土日の合同練習、夏、春の長期休暇中の強化合宿などで日々精進しております。

昨年度の箱根駅伝予選会は目標としていた26位に届かず悔しい思いをしましたが、個々の自己記録更新や一年生の力走で将来性のある結果として終わりました。この悔しさをバネに2015年度チームスローガンは『Break Through ~みんなのために~』を掲げ再度26位を目指し、将来は箱根駅伝出場を目指していきたいと思います。今後も更なる応援、ご支援をよろしくお願いいたします。

競技力の向上はもちろんのこと、部活動を通して、大学卒業後社会人として通用するために質の高い部の運営、責任を持たせるための役職を決めるなどして社会人基礎力の向上も目的としています。また、部活だけでなく、学業の面で学科成績順位は10位以内の選手が10名程度、他の選手も上位になるなど文武両道を目指して活動をしています。

現状、芝浦の練習環境は厳しく、練習場所など自分たちで探していかなければならないこと、全員が集まる機会が少ないこと、学業との両立などありますが自覚を持って練習に取り組む選手が多いです。

箱根駅伝出場常連校からしてみれば一般学生の選手だけでの部活はなく、予選会30位以内クラスの大学でさえ推薦学生、寮やグラウンドなどの練習場所、トレーナーなどのサポート体制が出来上がっています。そんな大学と私達は戦っています。箱根駅伝に出たいという熱い気持ち、自覚を持った練習への取り組み、発展途上の部であり困難の共有。それが私たちチームの絆を深めており、雑草魂で強化校に立ち向かいたいと思います。

受賞歴・成績

予選会実績

2012年度 40位/45チーム中
2013年度 31位/44チーム中
2014年度 33位/48チーム中
2014年度 出場記録会 15回 (自己ベスト数 41個)

チーム平均タイム

2013年度 5000m 15分30秒⇒ 2014年度 15分16秒
箱根駅伝 予選会標準記録会突破者 22名



Team Birdman Trial

部員数:107名
筆者:宮井 駿輔
学科:環境システム学科
学年:3年

活動内容



私たちの団体は、100名以上の部員が在籍しており、大学内でも屈指の部員数をほこる団体です。そのため、TBTに入るだけで、大学内の交友関係がぐっと広がります。また、私たちは機体製作だけでなく、月一での食事会や早朝のスポーツ大会、スノーボード旅行等様々な楽しいイベントを行っています。たくさんの部員と一緒に機体製作やイベントを楽しむことができ、とても充実した大学生活を送ることができます。飛行機に興味のある人もない人も楽しむことができる団体です。



私たちTeam Birdman Trial(以下TBT)は毎年、夏に琵琶湖で行われる鳥人間コンテスト出場を目指して活動しています。私たちは毎年、人力飛行機を飛ばしどれだけの距離を飛べるか競う、人カプロペラ機ディスタンス部に出場し続けています。

日々の活動では、部員が機体製作に励んでいるのはもちろんのこと、設計者と呼ばれるメンバーが機体の設計を行っています。春からは、飛行場でテストフライトを行い実際に飛行機を飛ばします。そして、7月末には、鳥人間コンテストが開催されます。私たちが一生懸命作り上げた機体が琵琶湖を飛ぶ姿は圧巻です。

受賞歴・成績

鳥人間コンテスト17回出場(2014年度大会まで)

2011~13年度 第34~36回大会、人カプロペラ機ディスタンス部門3位入賞

2014年度 第37回大会、人カプロペラ機ディスタンス部門出場(天候不良により大会中止)

今後の活動予定

鳥人間コンテストに向けて機体製作を行ってまいります。大宮校舎4号館フロアにて16時20分から毎日作業をしていますので、興味のある方は4号館に来てください。
現役のTBT部員一同お待ちしております。



SRDC（ロボットサークル）

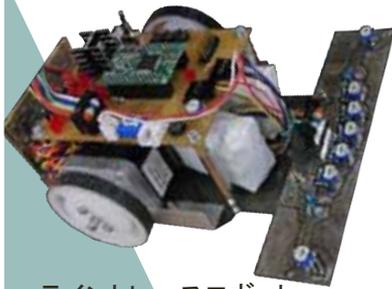
部員数：81名
筆者：島田航太郎
学科：機械工学科
学年：3年



二足歩行ロボット

活動内容

SRDCでは、かわさきロボット(多脚型ロボット)、マイクロマウスロボット(迷路探索ロボット)、ライトレースロボット、二足歩行ロボットを設計、製作しています。製作したロボットで様々な大会に出場し、上位入賞を目指しています。ロボット製作を通して未来のエンジニアの育成を目指します。



ライトレースロボット

ロボット系の団体では最も活動年数が長く、工具・工作機械も充実しています。パソコンで設計した部品を自動で切削するNC工作機を保有しており、より高度な加工ができます。ほとんど全員が入部当初は全くの初心者ですが、一年後には機体設計ができるまで成長できます。ものづくりの楽しみはもちろん、自分のロボットが試合で勝ったときには何事にも代え難い興奮や感動を得ることができるのも大きな魅力の一つです。

受賞歴・成績

【かわさきロボット】

第18回かわさきロボット競技大会 第3位
KHK杯 準優勝

【二足歩行ロボット】

第22回ROBO-ONE 優勝
ROBO-ONE甲信越大会 優勝

【マイクロマウスロボット】

第33回全日本マイクロマウス大会 決勝進出

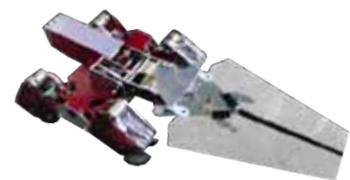
今後の活動

8月 かわさきロボット競技大会
夏季ROBO-ONE
(二足歩行ロボット競技全国大会)

11月 全日本マイクロマウス大会

3月 春季ROBO-ONE

その他 大学主催大会、地方大会等出場予定



かわさきロボット

体育会 剣道部

部員数：24名(うち女子2名)
筆者：日名 誠太
学科：土木工学科
学年：2年



活動内容

春、秋に行われる公式戦に向けて、週3日(月・水・土)集まって稽古をしています。稽古内容としては基本稽古を中心に、自由度の高い稽古を行っています。合宿は、春と夏の年2回、山梨県石和で行っています。活動は主に学生を主体に行っていますが、定期的に八段の師範がいらっしやって指導して下さいます。また、顧問の先生や監督、OBの先輩方、役員の方にも来ていただき稽古をつけていただいています。



大会で少しでもよい結果が残せるよう、部員一同頑張っている日々の稽古に取り組んでいます。26年度には待望の女子部員が2名、また留学生も2名加入しました。またOBの先輩方との交流が多いため、OBとの繋がりが強く、剣道のこと以外にも礼儀作法や社会で求められることなど今後必ず役に立つことを多く学ぶことが出来ます。

受賞歴・成績

第59回関東理工科系学生剣道大会

団体 準優勝

個人 第3位

今後の活動予定

5月 関東学生剣道選手権大会,
新入生歓迎会

6月 春季関東理工科系剣道選手権大会

8月 夏合宿



御寄付の御礼

芝浦工業大学校友会支援のため御寄付を賜りました。ご支援頂き誠にありがとうございます。

寄付者一覧 (敬称略)

西山 純	扇田 恭子	タヤマ ヒトヒロ
加藤 雄一	浅田 福三	岐阜支部一同
松本 守博	高久 肇	福岡支部一同
安河内 正俊	瀬上 真乙都	本間 稔
飯山 英樹	青田 真一	愛知支部一同
福井 透	稲葉 一雄	静岡県同窓会支部一同
先原 貞人	今江 澄仁	平成27年新年賀詞交歓会参加者
仲尾 謙二	栃木支部一同	

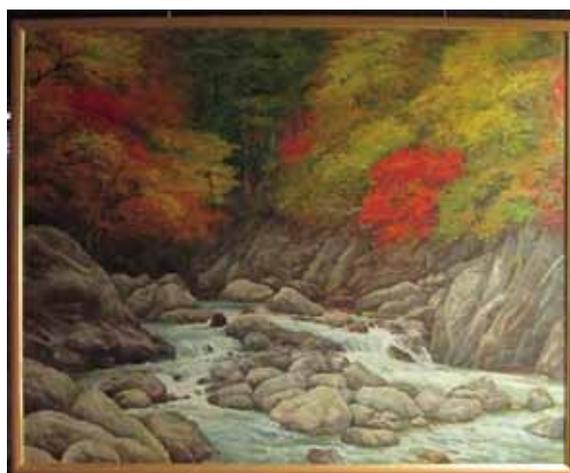
絵画御寄贈の御礼

校友会に卒業生関係者の方より絵画の寄贈を賜りました。皆様のご厚意に感謝いたします。

絵画は芝浦校舎7階 校友倶楽部に展示させていただきました。



タイトル： 厳冬雪景



タイトル： 紅葉の夏井川溪谷

作者プロフィール

画家 西山 巖 (昭和35年 土木工学科卒)

福島県美術家協力会員 大潮会会員

- 昭和12年 福島県いわき市に生まれる
- 平成3年 東京都庁、福島県庁職員を経て、画家としてプロに転向
- 平成4年 大潮会展、会賞受賞、一水会展出展
- 平成5年 大潮会展、大賞受賞、一水会展連入
- 平成6年 大潮会展、特選受賞
- 平成7年 大潮会、会員推挙(フランス、モナコ、トルコ、ギリシャ等取材)
- 平成8年 大潮会展、会員努力賞受賞
伊勢丹東京新宿店にて個展開催
- 平成10年 いわき市大田屋百貨店にて個展開催 現在に至る
(福島中合デパート他個展6回開催)
- 平成25年 芝浦工業大学校友会に二作品(百号)を寄贈

皆様のご協力と、ご厚志に深く御礼申し上げます。

「芝浦工大卒業生人材バンク」より登録のお願い

本校は、創立以来多くのエンジニアを輩出してまいりました。それに対する社会からの信頼は、益々高まるばかりで、在校生の就職活動における大きな推進力にもなっています。

現在も各業界からの当校OBに対するニーズは高く、皆様のご経験に培われた技術力を期待する求人が寄せられています。

本校の事業法人である(株)エスアイテックでは、卒業生の皆さまの技能・ノウハウを広く社会に提供する人材ビジネスを積極的に展開しております。新たな活躍の場を求める皆様に人材バンクへのご登録をお願いいたします。ご登録いただいた方には、粗品を進呈しております。

お仕事紹介（登録料・手数料は一切不要です）

- ① キャリアアップ支援 — 正社員、契約社員などへの紹介
- ② 技能・ノウハウの活用 — 人材派遣、業務委託スタッフなどでご活躍の場を提供

※詳しくは、当社HPをご覧ください <http://www.sitech-jp.com/recruit.php>

お問い合わせ

株式会社 エスアイテック 人材開発課
電話 03-5859-7946 【担当】松井、宮浦

大学オリジナルグッズのご紹介

SHIBAURA ORIGINAL GOODS

● 大学オリジナルグッズがリニューアル!

三浦工大の「校章」をモチーフとしたオリジナルグッズが完成しました。今回はマグカップやクッキーなどを制作。全品にて販売しておりますのでぜひお買い求め下さい。今後も、皆さまに愛用されるオリジナルグッズを企画してまいりますので、ご期待ください。

マグカップ 750円
クッキー(箱入り) 700円が人気商品です♪

地方発送も承っております。
購入に関するお問い合わせは
048-720-6600
(大宮キャンパス生協)まで!

清持み 700円
マグカップ 750円

クッキー9枚(箱入り) 700円
クッキー15枚(箱入り) 1,400円
(お買い得価格)

ボールペン 100円
シャープペン 100円

クッキーフォルダ(大学名入り) 130円
クッキーフォルダ(校章入り) 130円

東京キャンパス生協、大宮キャンパス生協にて販売しています。



誰もがあたり前に家を買える。
そんな社会は、誰がつくる？

日本一^{*}の分譲住宅メーカーの私たちがやります。



代表取締役社長 西河 洋一

〒188-0003 東京都西東京市北原町3-2-22
tel 042-452-5888 <http://www.ighd.co.jp>

*分譲戸建住宅市場におけるシェア 日本一 (2013年4月1日～2014年3月31日 住宅産業研究所調べ)



空気と水の環境創造企業
三建設備工業

本社 東京都中央区新川1-17-21
TEL 03 (6280) 2561
URL <http://skk.jp/>



東西化学産業株式会社
本社 社/〒540-6118 大阪市中央区城見2-1-61
(ツイン21MIDタワー18階)
TEL.(06)6947-5511 FAX.(06)6947-5510

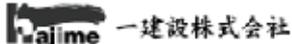
技術経営人財の育成と活用



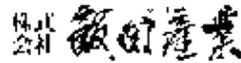
一般財団法人 **アーネスト育成財団**

- 理事長 西河 洋一 (平成21年大学院 MOT 修了)
- 専務理事 小平 和一朗 (昭和45年電子工学科卒業)
- 理事 浅野 昌宏 (昭和44年電子工学科卒業)
- 評議員 柴田 智宏 (平成17年大学院 MOT 修了)
- 顧問 吉久保 誠一 (昭和39年機械工学科卒業)

東京都渋谷区代々木1-57-2 704号 TEL(03)6276-6260 <http://www.eufd.org>
(ホームページには、技術経営 (MOT) 情報が掲載されています)



代表取締役社長 堀口 忠美
東京都練馬区石神井町2-26-11
TEL 03-5393-3071
URL <http://www.hajime-kensetsu.co.jp>



代表取締役社長 兼井 雅史
東京都武蔵野市境2-2-2
TEL 0422-36-8848
URL <http://www.iidasangyo.co.jp>

有限会社 ワンダー電機製作所

代表取締役

畠中 総一郎

〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池部町 4691
TEL : 045-482-4916 FAX : 045-482-4917
E-mail : bz956087@bz03.plala.or.jp



代表取締役社長 西野 弘
東京都西東京市芝久保町4-26-3
TEL 042-463-0220
URL <http://www.touei.co.jp>



代表取締役社長 小寺 一裕
東京都西東京市東伏見3-6-19
TEL 042-464-8788
URL <http://www.tacthome.co.jp>

空気調和・給排水・冷凍冷蔵
設備の設計・施工・保守



〒143-0023 東京都大田区山王2丁目5番9号
TEL 03-6429-3600
不二熱学工業株式会社

いい仕事には、体温がある。



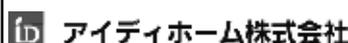
代表取締役 **小川 達生**
(昭和51年 通信卒)

株式会社 **日新コンピュータシステム**

〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3
TEL 03-5802-0321
FAX 03-5802-0322
URL <http://www.nisin.co.jp/>



代表取締役社長 松林 重行
東京都西東京市北原町3-2-22
TEL 042-461-6288
URL <http://www.arnest1.co.jp>



代表取締役社長 久林 欣也
東京都西東京市西原町1-4-1
TEL 042-451-8868
URL <http://www.idhome.co.jp>

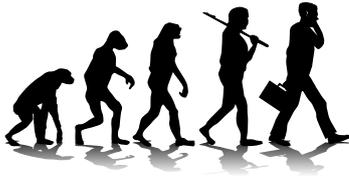
(株)宮建築設計

代表取締役 **宮本 博**

昭和47年卒 建築学科
(校友会 徳島県支部長)

本社：徳島市福島1-5-6 TEL:088-625-5505
東京本店：東京都中央区八丁堀2-28-10 TEL:03-6280-3305
<http://www.miyasekkei.com>
E-mail:miyamoto@miyasekkei.com

変わり続けるDNA



⑥ 六興電気株式会社
代表執行役社長 長江 洋一

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 / TEL:03-3459-3366 / URL: <http://www.6kou.co.jp>



人々が快適に生活できる
施設環境をプロデュースする

総合ビルメンテナンス

株式会社 Jリマビシステム

代表取締役社長 鴻 義久(昭和47年 土木工学科卒)

本社

〒220-8116
横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー16階
TEL:045-224-3550(代表)

東京本部

〒111-0053
東京都台東区浅草橋5-20-8
CSタワー10階
TEL:03-5820-5300(代表)

<http://www.bstem.co.jp>

情報通信コンサルタント

パルス・オブ・ドリーム株式会社

代表取締役

井上 正 教
(昭和38年 電気工学科卒)

〒286-0018 成田市吾妻 1-31-5
TEL・FAX.0476-26-7972



業務用酒類食材卸
宮内庁御用達
享保2年(1717年)創業

株式 会社 **ぬ利彦**

代表取締役 九代目 中澤彦七
東京都中央区京橋 2丁目 9番 2号
電話 (3535) 5311 (代表)

安全・安心の提供を通じて
社会に貢献する



◆ 事業内容

建設関連製品事業
自動車関連製品事業
ホテル事業
その他の事業



岡 部 株 式 会 社

東京都墨田区押上2丁目8番2号
<http://www.okabe.co.jp/>

人と地球の未来のために。

信頼に応える 確かな技術



大豊建設株式会社

代表取締役社長 水島 久尾
(昭和43年土木卒)

〒104-8289 東京都中央区新川1-24-4 TEL 03-3297-7000

芝浦工業大学 校友会 全国総会

祝

お仕事紹介・転職支援をお手伝いします

卒業生人材バンク
登録受付中

URL: <http://www.sitech-jp.com/recruit.php>

お問い合わせ先
人材開発課 : 松井
03-5859-7946



学校法人 芝浦工業大学 事業法人
株式会社エスアイテック
代表取締役 鈴木 健夫

建物を育て 未来へつなぐ

ハートフル♥エンジニアリング
株式会社 **アサヒ ファシリティズ**
建物総合管理事業 / 不動産事業 / 保険代理事業

取締役社長 林 誠
(昭和47年卒 建築工学科)

〒136-0076 東京都江東区南砂2丁目5番14号 TEL (03) 5683-1181 URL: <http://asahifm.com/>



道からはじまる街づくり



日本道路

〒105-0004 東京都港区新橋1丁目6番5号 TEL:03-3571-4893
<http://www.nipponroad.co.jp/>

想いをかたちに 未来へつなぐ

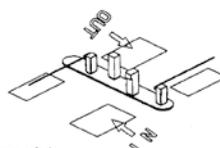
TAKENAKA

竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1

駐車場システム機器のご用命は

株式会社 **カスサッポロ**
(日本信号株式会社代理店)



代表取締役
小川 博司 (S45年工業経営)
〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条1丁目7番19号
TEL (011) 853-5152 FAX (011) 853-5454

芝浦工業大学校友会全国総会の
開催を心よりお慶び申し上げます

HOTEL
East 21
T O K Y O

 **三井住友建設**
http://www.smcon.co.jp/

はしも、
まちも、
ひとつも。

橋をわたり、街をあるき、大切な人とすごす。
そんな日々のくらしがいつまでも続くよう、
豊かな未来につながるものづくりに全力で取り組みます。



次の100年に向け、技術とともに歩む。



 **東光電気工事株式会社**

TOKO ELECTRICAL CONSTRUCTION CO., LTD.

取締役社長 馬田 榮

- 内線事業 ●外線事業 ●新エネルギー事業
- 空調・衛生事業 ●海外事業 ●事業開発

本社 〒101-8350 東京都千代田区西神田1丁目4番5号 TEL (03)3292-2111
http://www.tokodenko.co.jp/

長州萩の美酒 長陽福娘



岩崎酒造株式会社
代表取締役 岩崎喜一郎
山口県萩市大字東田町 58 番地
TEL0838-22-0024

創業大正十三年  Joyous Life
グループ

パーティ、高級仕出し、
会議用弁当は正直屋に
おまかせください!

●ご注文・お問い合わせは

東京正直屋 城北店

 **0120-84-1171**

http://www.shojikiya.co.jp/

— 警備保障 —
(常駐、交通誘導、施設警備)

アムス警備株式会社

代表取締役 森川 理
(昭和46年電子卒)

〒170-0004 東京都豊島区北大塚
2-16-4
TEL03-3917-6231
FAX03-3917-6356

緑化事業を通じて

就労支援を行っております



株式会社アカネ

代表取締役 金子 和平
(昭和44年 経営工学科卒)

http://akane-green.co.jp

心に明りを！ 家庭に明りを！
世界に明りを！

アンドウ電気照明(株)

LED 電球・照明器具
販売・取付工事
0120-71-0011

神奈川県逗子市池子1-3-12
http://www.admiral-lighting.jp/

快適な環境づくりに
確かな技術で貢献する

 **住友電設株式会社**

取締役社長 磯部 正人

http://www.sem.co.jp/

山形の手作りの地酒



朝日川酒造株式会社

山形県西村山郡河北町谷地乙9-3



芝浦工業大学柏中学高等学校
フィールド冷却細霧システム導入

 **NTS日本体育施設**

〒164-0003 東京都中野区東中野3-20-10
TEL.03-5337-2611 FAX.03-5337-2610

確かなものづくりで最先端技術を支える林グループ



林時計工業株式会社

REPIC

林栄精器株式会社

時計の技術で培った精密加工のノウハウを生かし、
国際化社会のニーズに対応した商品をお届けします。

本社 〒170-0004 東京都豊島区北大塚1丁目28番3号

TEL : 03-3918-5237

http://www.htkgrp.co.jp

連絡先: 安田俊司 平成4年機械二科卒 s-yasuda@htkgrp.co.jp

さらなる安心
と信頼のため
に大きく生まれ
変わりました。

私たちは、「現場力」と「提案力」にこだわり、
お客様に「安全・安心」と「快適」を提
供してまいります。

 あしたを、つなぐ
野村不動産パートナーズ

〒163-0562 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号
新宿野村ビル8階
教育施設事業二部 TEL03(3345)0672

http://www.nomura-pt.co.jp

**BADGE & MEDAL
FACTORY**

NAKAJIMA KISHO Co.Ltd.

since 1918

有限会社 **中島徽章**

代表取締役 中島博行
(昭和60年 金属科卒)

〒111-0036 東京都台東区松が谷2-16-3
TEL 03-3844-2207 Fax 03-3845-5005
http://members2.jcom.home.ne.jp/n-kisho/

UCHIDA

顧問

向井 眞一 (芝浦工業大学評議員)

株式会社 **内田洋行** 〒104-8282 東京都中央区新川2-4-7 03-3555-4072

人がつくる。人でつくる。

 戸田建設



本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 ☎03-3535-1354 www.toda.co.jp



夢から未来を始めよう。



子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION 
清水建設

シミズ・ドリーム 検索

酒・食品
自家製惣菜

みなとや
Minatoya

●年中無休 芝浦3-11-8 3453-3718
FAX 5232-5129

NOHMI

あなたを火災から守る、スペシャリスト。

能美防災株式会社

防災機器の研究開発から
機器の生産、施工、メンテナンスまで、
トータルな防災システムをご提案しています。

専務取締役 内山 順
(昭和46年 工化卒)

本社
〒102-8277 千代田区九段南4-7-3
TEL. (03) 3265-0211
http://www.nohmi.co.jp/

想像を、チカラに。



人が想像できることは、必ず人が実現できる。鹿島の都市づくりは、100年先を見つめています。

100年をつくる会社
鹿島

平成26年度
1級建築士
設計製図試験

重要なのは「今」の試験の合格実績
平成26年度も合格者数No.1

全国
合格者占有率
No.1

全国の合格者の
2人に1人以上が
当学院現役受講生!

合格者占有率
54.8%

全国合格者3,793名中、当学院現役受講生2,077名 ※都道府県合格者数は、(財)建築技術教育普及センターの発表による。

法定講習 | 一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 監理技術者講習
第一種電気工事士定期講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習

開講講座 | 1級・2級 建築士 / 1級・2級 建築施工管理技士 / 1級・2級 土木施工管理技士 /
構造設計1級建築士 / 設備設計1級建築士 / 宅建士 / インテリアコーディネーター



総合資格学院

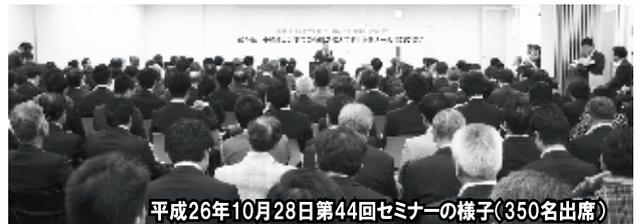
www.shikaku.co.jp 学院長 岸 隆司

上野校 TEL: 03-3832-7201

建築・不動産ビジネスの商機を拡大する

REB-1000
REAL ESTATE BUSINESS 1000 MEMBERS

一般社団法人
REB-1000社の会



平成26年10月28日第44回セミナーの様子(350名出席)

一般社団法人REB-1000社の会(レブ1000社の会)は、『建築・不動産ビジネスの商機を拡大する』というテーマの下、セミナーとビジネス交流会を行っております。前回で45回を数え、参加企業4300社、11,900名を超えました!

理事長 清水 修司 (S44年 建築学科卒)
(株式会社SD建築企画研究所 代表取締役)

事務局
http://www.REB-1000.jp
TEL: 03-3485-0111(代) FAX: 03-3485-6776

「校友倶楽部」が6周年を迎えました!

皆様のより一層のご利用を心よりお待ちしております。

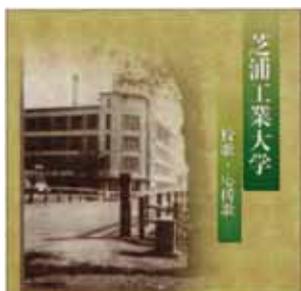


【ホワイトラウンジ】



【ブラックラウンジ】

芝浦工業大学校歌 CD(¥2,000…送料込)販売



「曲目」

1. 芝浦工業大学校歌
2. 応援歌
3. 校歌演奏

指揮：金 洪才
 独唱：望月哲也
 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団

校歌：作曲・山田耕作
 作詞・北原白秋

●CDに関するお問い合わせ先
 【芝浦工業大学校友会】

〒108-8548
 東京都港区芝浦3-9-14 芝浦工業大学内
 TEL03-5445-9634 FAX03-5445-9635
 e-mail:sitfriends@shibaura-koyu.jp

●振込先
 郵便局：加入者名：芝浦工業大学校友会
 口座番号：00160-5-9575

校歌

山田耕筈 作曲
 北原白秋 作詞

一、朝日に輝く 風と潮

雄大空あり 雲は移る

揚げよ校旗の 翩翩たるを

白亜の殿堂 ここに聳え

われらが工学 英気鐘む

芝浦 芝浦 我等が母校

二、世紀に脈うつ 熱と理性

剛健矩あり 常に鍛う

行へほがらに 淡刺たれや

師弟の純情 一に依りて

磨くにこの技 神に通ず

芝浦 芝浦 我等が母校

三、永遠に栄ゆく 意志と秩序

誠実ただあり 道は徹る

夢むな空理の 漠々たるを

精微をきはめて 事に即かば

工学日本 大を成さん

芝浦 芝浦 我等が母校



芝浦工業大学 校友会